

令和5年度全国学力・学習状況調査

本県の結果と今後の対策

【中学校】

令和6年2月16日

青森県教育庁学校教育課

令和5年度全国学力・学習状況調査 本県の結果と今後の対策【中学校】

目 次

I 全体概要	1
1 調査の概要	1
2 教科ごとの状況.....	1
3 質問紙調査結果から見える要因・・	1
II 国語	3
1 教科全体の結果	3
2 領域別の正答率	3
3 問題別集計結果	4
4 問題別集計結果の状況	5
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県生徒の状況	7
6 学校質問紙調査の結果から見える国語の指導状況	8
7 指導改善のポイント	9
＜令和4年度県学習状況調査を踏まえて(国語)＞	
III 数学	13
1 教科全体の結果	13
2 領域別の正答率	13
3 問題別集計結果	14
4 問題別集計結果の状況	15
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県児童の状況	17
6 学校質問紙調査の結果から見える算数の指導状況	18
7 指導改善のポイント	19
＜令和4年度県学習状況調査を踏まえて(数学)＞	
IV 英語	23
1 教科全体の結果	23
2 領域別の正答率	23
3 問題別集計結果	24
4 問題別集計結果の状況	25
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県児童の状況	31
6 学校質問紙調査の結果から見える算数の指導状況	32
7 指導改善のポイント	33
＜令和4年度県学習状況調査を踏まえて(英語)＞	
V 質問紙調査	36
1 生徒質問紙調査の結果と今後の対策	36
2 学校質問紙調査の結果と今後の対策	41

* 本報告書の活用にあたって *

本報告書は、本調査の結果を受けて、本県の学習指導上の課題を明らかにし、県内の各学校が今後とるべき対策の参考となる事柄を示すことを主なねらいとして作成したものです。

本報告書の活用にあたっては、各教科・科目の結果だけでなく、質問紙調査の結果についても、自校の結果と比較しながら、今後の指導の改善に役立てていただきたいと考えております。

なお、本調査の結果の概要や正答数の分布、全ての小問の正答率等については、文部科学省から配布された『令和5年度全国学力・学習状況調査【小学校】又は【中学校】調査結果』（ダウンロード版）を参照してください。

また、国立教育政策研究所のホームページに、文部科学省の報告書や調査結果を踏まえた「授業アイデア例」が掲載されていますので、併せて活用してください。

* 本報告書の用語や記号等について *

本報告書中の用語や記号等については、次のような意味で使用しています。

「全国平均との差」

：「今年度の本県の平均正答率－今年度の全国平均正答率」の式で求めた値。本県が全国を上回っていれば「＋」、また、下回っていれば「－」で表示しています。

「前年度との差」

：「今年度の本県の平均正答率－令和4年度の本県の平均正答率」の式で求めた値。
今年度が令和4年度を上回っていれば「＋」、また、下回っていれば「－」で表示しています。

「過年度との差」

：隔年で質問されている項目へ対応するため、「今年度の本県の平均回答率－令和4・令和3・平成31・30・29年度の本県の平均回答率」の式で求めた値。今年度が過年度を上回っていれば「＋」、また、下回っていれば「－」で表示しています。

※本県の平均正答率は「％」で、過年度との差については「ポイント」で表しています。

「□」：概況を示しています。

「▼」：課題を示しています。

「◆」：今後の方向性や対策・指導等を示しています。

「★」：肯定的な回答と教科の相関があることを示しています。

「**数字**」：本県の平均正答率が、対比している値に対して5ポイント以上下回っていることを示しています。

I 全体概要

I 調査の概要

(1) 調査実施日

令和5年4月18日(火)

(2) 調査内容(教科、質問紙調査)

① 教科

小学校 国語(45分) 算数(45分)

中学校 国語(50分) 数学(50分) 英語(45分) ※英語「話すこと」(5分程度)

② 質問紙

児童生徒質問紙調査

学校質問紙調査

(3) 参加公立学校数

小学校参加校数 本県 250校(全国 18,672校)

中学校参加校数 本県 148校(全国 9,408校)

(4) 参加児童生徒数

小学校児童数 本県 8,521名【国語】(全国 964,177名)

8,519名【算数】(全国 964,350名)

中学校生徒数 本県 8,511名【国語】(全国 892,738名)

8,507名【数学】(全国 893,114名)

8,525名【英語】(全国 893,528名)

2 教科ごとの状況

本県の公立小・中学校の児童生徒の学力の状況は、小学校においては、全ての教科で、平均正答率が全国平均を上回っています。中学校においては、国語が全国平均を上回っている一方で、数学と英語は全国平均を下回っています。

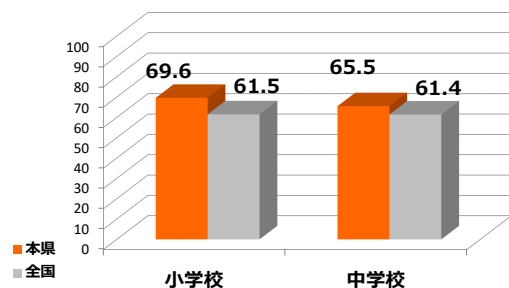
	令和5年度	
	平均正答率(%)	
	青森県(公立)	全国(公立)
小学校国語	70	67.2
小学校算数	63	62.5
中学校国語	70	69.8
中学校数学	49	51.0
中学校英語	42	45.6

3 質問紙調査から見える要因

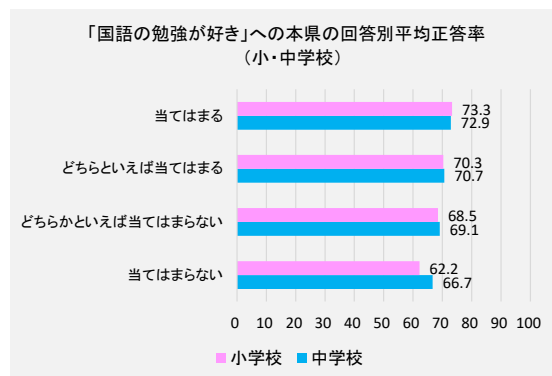
ここでは、本県の調査結果に係る要因の一つとして「各教科に対する興味・関心について」を取り上げます。その他の要因については、各教科の頁を参照してください。

要因につながるデータ

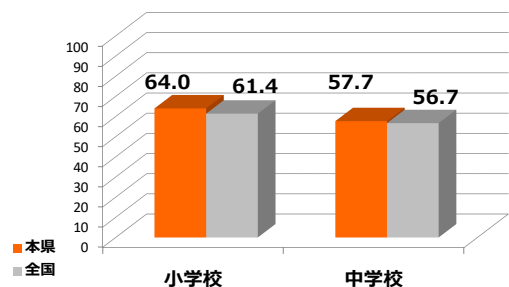
【国語の勉強は好きか】



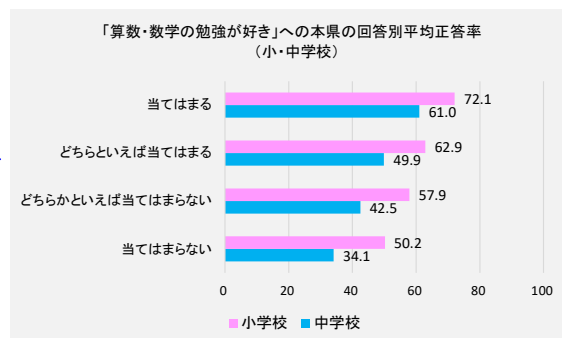
【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合(%)】



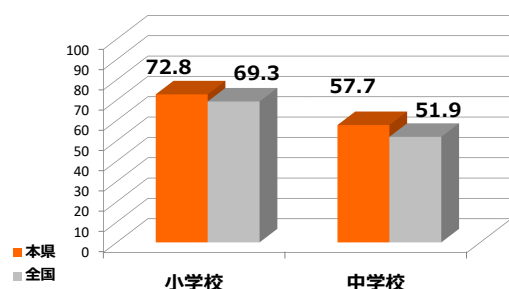
【算数・数学の勉強は好きか】



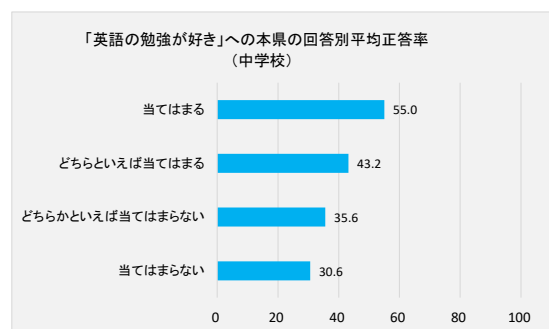
【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合(%)】



【英語の勉強は好きか】



【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した生徒の割合(%)】



- 本県の児童生徒は、各教科の学習に対する興味・関心が全国平均を上回っている。
- 各教科の学習に対する関心が高い児童生徒は、各教科における平均正答率も高い傾向にある。
- ◆今後も、児童生徒の各教科の学習に対する興味・関心を高める働きかけを工夫するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進め、知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成に努めることが肝要である。

Ⅱ 国語

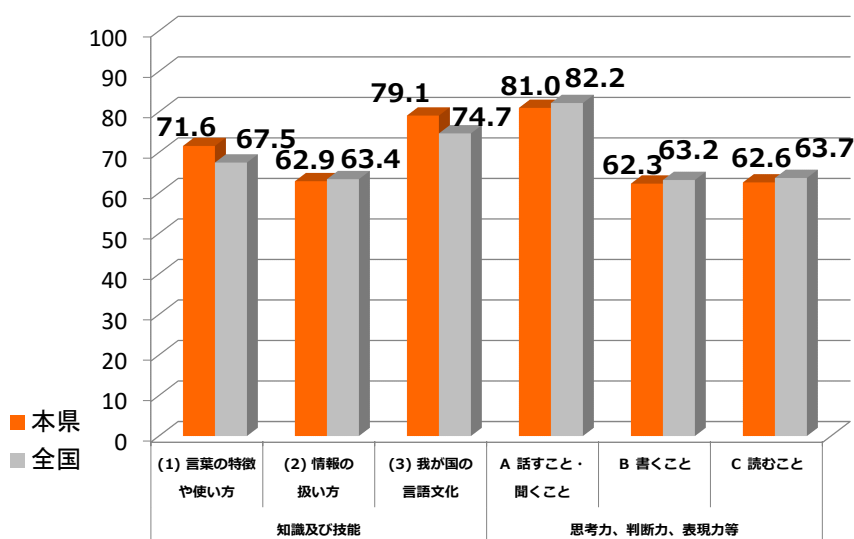
1 教科全体の結果

国語の平均正答率（％）		
青森県	全国平均との差	令和４年度全国平均との差
70	+0.2	±0.0

□ 国語全体としては、本県は、全国平均と同程度である。

2 領域別の正答率

分 類		区 分	平均正答率（％）		
			青森県	全国平均との差	令和４年度全国平均との差
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.6	+4.1	+1.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	62.9	－0.5	+3.8
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	79.1	+4.4	－1.5
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	81.0	－1.2	－1.1
		B 書くこと	62.3	－0.9	+3.8
		C 読むこと	62.6	－1.1	－1.8
評価の観点	知識・技能	72.3	+2.9	+0.9	
	思考・判断・表現	68.7	－1.0	－0.5	
	主体的に学習に取り組む態度				



□ 「知識及び技能」の領域においては、「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」、「(3)我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率は全国平均をやや上回っており、「(2)情報の扱い方に関する事項」の平均正答率は全国平均と同程度である。また、「思考力、判断力、表現力等」の領域においては、「B書くこと」の平均正答率は全国平均と同程度であり、「A話すこと・聞くこと」、「C読むこと」の平均正答率は全国平均をやや下回っている。

3 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等											
			(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	青森県（公立）	全国（公立）	全国（公立）との差
1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する	目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる				1ア			○		○			86.7	87.5	-0.8	
1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		1ア					○		○			66.5	65.1	1.4	
1三	相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する	話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる				1エ			○		○			73.6	76.6	-3.0	
1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				1エ			○			○		82.7	82.5	0.2	
2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる	1ウ						○		○			91.4	91.1	0.3	
2二	二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する	観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる					2エ		○		○			59.8	63.0	-3.2	
2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する	文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる					1ア		○		○			70.7	74.2	-3.5	
2四	自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる		2エ			2オ	○	○			○		69.1	67.5	1.6	
3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる				1エ			○		○			52.3	54.3	-2.0	
3二	漢字を書く（おし量って）	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2ウ						○			○		51.8	43.9	7.9	
3三	「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		2ア					○			○		59.2	61.8	-2.6	
3四	「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる				1ウ			○			○		72.2	72.1	0.1	
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（いひける）	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる		1ア					○			○		91.2	82.5	8.7	
4二	原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す（いと）	古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる		2イ					○			○		77.1	74.1	3.0	
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる					1エ		○			○		50.7	50.0	0.7	

4 問題別集計結果の状況

○良好であること

〔知識及び技能〕

○言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる【3二】（対全国比：+7.9）

○情報の扱い方に関する事項

- ・意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる【1二】（対全国比：+1.4）

○我が国の言語文化に関する事項

- ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる【4一】（対全国比：+8.7）
- ・古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる【4二】（対全国比：+3.0）

〔思考力、判断力、表現力等〕

○読むこと

- ・文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる【2四】（対全国比：+1.6）

▼課題であること

〔知識及び技能〕

▼情報の扱い方に関する事項

- ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる【3三】（対全国比：-2.6）

〔思考力、判断力、表現力等〕

▼話すこと・聞くこと

- ・話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる【1三】（対全国比：-3.0）

▼書くこと

- ・読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる【3一】（対全国比：-2.0）

▼読むこと

- ・観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる【2二】（対全国比：-3.2）
- ・文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる【2三】（対全国比：-3.5）

学習指導に当たって

〔知識及び技能〕

情報の扱い方に関する事項

・具体と抽象など情報と情報との関係について理解する

具体と抽象の関係を理解するためには、それぞれの言葉の意味を捉えた上で、具体と抽象が、状況や必要に応じて使い分けられていることを理解することが重要である。具体とは、物事などを明確な形や内容で示したものであり、抽象とは、いくつかの事物や表象に共通する要素を抜き出して示したものである。これらのことを踏まえ、例えば、具体は例示の際など、抽象は共通する要素をまとめる際などに使われていることを、身の回りの事例と結び付けながら捉えることができるように指導することが大切である。その際、第2学年〔知識及び技能〕の(1)「エ 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。」や、第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「B 書くこと」の(1)「イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。」などとの関連を図り、具体と抽象の意味や関係を、語句の意味や自分が伝えようとする情報と結び付けて考えることができるように指導することが有効である。

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

・話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問する

話し手に質問する際には、話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することが重要である。その際、目的や状況を意識した上で、質問の意図を伝えたり、適切な機会を捉えたりできるように指導することが大切である。

書くこと

・読み手の立場に立ち、叙述の仕方などを確かめて文章を整える

書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるように指導することが引き続き大切である。その際、第1学年〔知識及び技能〕の(1)エの「指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。」や(2)「ア 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。」などとの関連を図り、学習した知識を観点として文章を読み返すように指導することが有効である。

読むこと

・観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える

説明的な文章において表現の効果について考える際には、文章で述べられている内容を確認した上で、文章のどの部分にどのような表現の工夫が見られるかを捉えることが必要である。その際、構成や展開、引用や事例の示し方、文末表現や文体などに着目し、それらの工夫が文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが大切である。

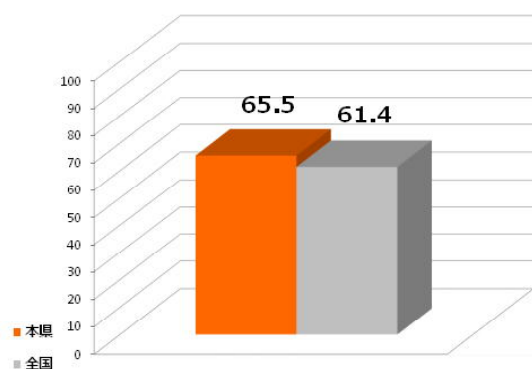
・文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握する

説明的な文章を読む際には、文章の構造を捉えて要旨を把握することが大切である。説明的な文章は、文章の中心的な部分と付加的な部分とが組み合わされていたり、事実を述べた部分と意見を述べた部分とで構成されていたりする。それを踏まえ、段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を押さえたりしながら、更に大きな意味のまとまりごとに、文章全体における役割を捉えることが重要である。また、要旨とは、文章で取り上げている内容の中心となる事柄や書き手の考えの中心となる事柄である。正確に要旨を捉えるためには、文章の構造を踏まえて、キーワードやキーセンテンスなどに着目して情報を整理することが必要である。

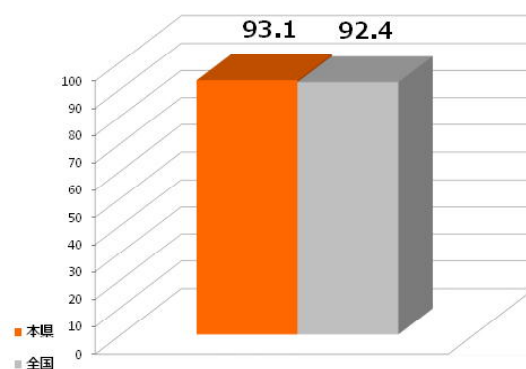
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県生徒の状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した生徒の割合（％）】

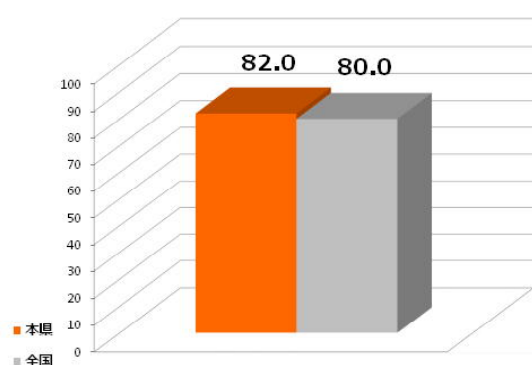
【（４７）国語の勉強は好きか】



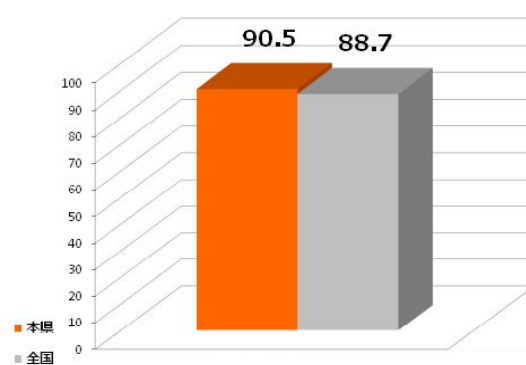
【（４８）国語の勉強は大切な】



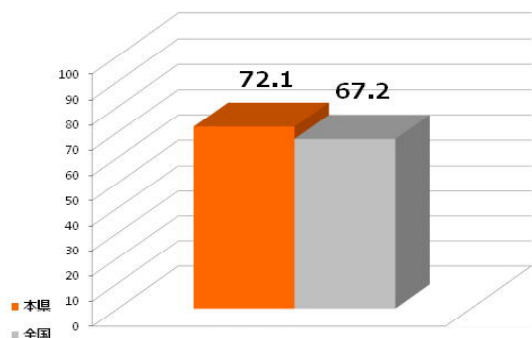
【（４９）国語の授業の内容はよく分かる】



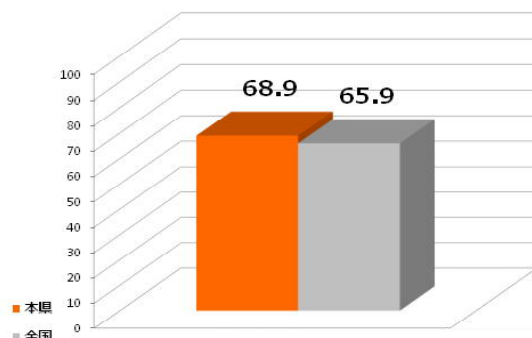
【（５０）国語の学習は、将来役に立つ】



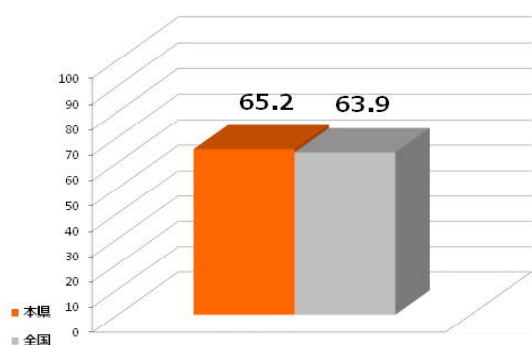
【(51) 行書の基礎的な書き方を理解して書く】



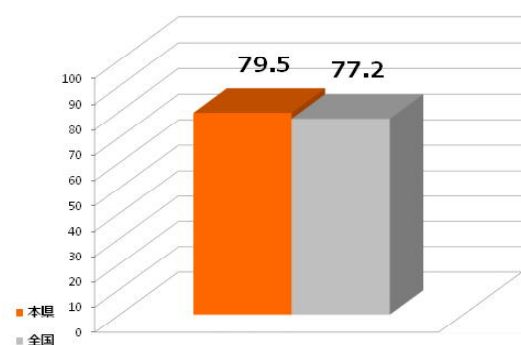
【(52) 聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫している】



【(53) 根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いている】



【(54) 場面の展開や登場人物の心情の変化について、描写を基にとらえている】

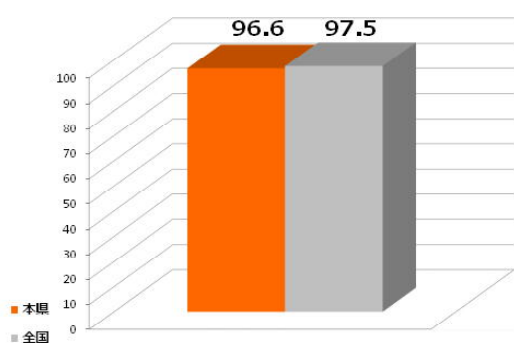


□本県の生徒の国語学習に対する興味・関心の高さや授業の理解度等は概ね良好な状況にあり、国語の勉強が好きだと思っている生徒は全国平均を上回っている。
□約9割の生徒が、国語の勉強は大切であり、授業で学習したことは、将来役に立つと考えている。

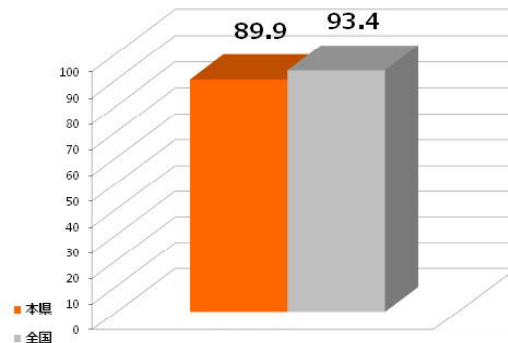
6 学校質問紙調査の結果から見える国語の指導状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した生徒の割合(%)】

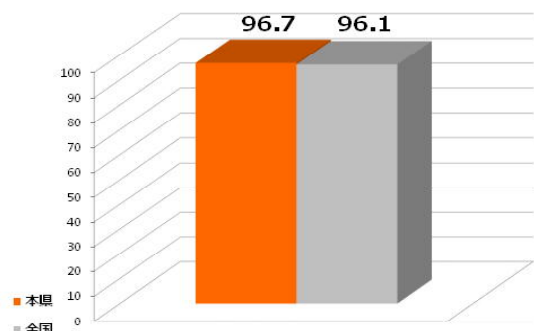
【(39) 言葉の特徴や使い方の知識を理解したり使ったりする授業を行った】



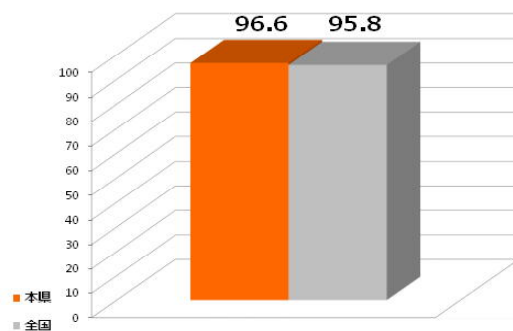
【(40) 目的に応じて自分の考えを話したり質問したりする授業を行った】



【(41) 根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりする授業を行った】



【(42) 文章を読み内容を解釈して考えを広げたり深めたりする授業を行った】



□言葉の特徴や使い方の知識を理解したり使ったりする授業、根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりする授業及び文章を読み内容を解釈して考えを広げたり深めたりする授業には、9割以上の学校で十分に取り組んでいる。

▼目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業への取組が全国平均を下回り、十分に行われていない状況にある。

7 指導改善のポイント

(1) 各領域について《令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書より》

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

◆ 漢字を正しく用いる態度と習慣を養う指導の充実

漢字の書きについては、学習指導要領の学年別漢字配当表に示されている1,026字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れる必要がある。そのために、国語の授業の中では、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得させるとともに、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことができるよう指導することが大切である。なお、1人1台端末等で文字を入力する際にも適切な漢字を選択することができるよう、変換の際に意味を確認したり、必要に応じて辞書を引いたりするように指導することも重要である。

情報の扱い方に関する事項

◆ 情報と情報との関係を理解する指導の充実

〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域における指導事項が示す資質・能力を育成するためには、話や文章に含まれている情報と情報との関係を捉えて理解したり、自分のもつ情報と情報との関係を明確にして話や文章で表現したりすることが重要になる。そのために、「原因と結果」、「意見と根拠」、「具体と抽象」などの基本的な情報と情報との関係について理解し、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面で活用できるように指導することが大切である。

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

◆ 話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問する指導の充実

聞いたことを基に自分の考えをまとめるには、何のためにどのような状況で話を聞いているのかを意識し、話の内容を正確に理解することが必要である。その際、必要に応じて記録したり質問したりしながら聞くことが重要になる。話し手に質問する際に、質問の適切な機会を捉えるとともに、話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりす

るなど、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるように指導することが大切である。

書くこと

◆ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く指導の充実

自分の考えが伝わる文章を書くためには、伝えたい自分の考えと、考えを支える根拠を文章の中に記述する必要がある。その際、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認した上で、考えを支える根拠として示す事例等を検討し、考えと事例等との関係を明確にして記述できるように指導することが大切である。

読むこと

◆ 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする指導の充実

文章を読んで自分の考えを広げたり深めたりするためには、文章の内容を理解するだけでなく、自分がもっている知識や経験と結び付けることによって、理解したことや考えたことをより具体的で明確なものにしていくことが重要である。その際、第2学年〔知識及び技能〕の(3)「エ 本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。」との関連を図り、読書の意義や効用についても理解が深まるように指導することが効果的である。

(2) 質問紙調査の結果を踏まえて

◆ 「話すこと・聞くこと」の資質・能力を確実に身に付けさせるための言語活動の創意工夫

児童質問紙調査より

- ・ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）においては、「国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いている」と解答している生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られ、本県では、全国平均を1.3ポイント上回っている。
しかし、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況においては、「1、2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」では、全国平均を6.1ポイント下回っている。

学校質問紙調査より

- ・ 国語の指導方法に関する学校質問紙調査において、「生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行いましたか」の質問では、全国平均を3.5ポイント下回った。
- ・ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況に関する学校質問紙調査においては、「授業において自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思う」「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思う」「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」「学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思う」と回答している学校の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。
しかし、本県では「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問では、全国平均を4.2ポイント下回っている。

以上のことから、「話すこと・聞くこと」の資質・能力を確実に身に付けさせるための言語活動の創意工夫が重要であると考えられる。

特に、国語の授業において、聞き手に伝えたい内容を分かりやすく伝えるために、集めた材料や具体的な事実、自分の感じたことや考えたことなどをどのように配列するかを考えたり、接続する語句や文末表現などに注意したりするなどして、自分の考えやその根拠が明確になるように話を構成することが重要である。

具体的には、「紹介や報告、説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする言語活動」や「互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う言語活動」「議論や討論をする活動」の創意工夫が考えられる。

また、話し合う言語活動は、国語の他の領域や他教科等においても取り入れられることが多いため、それらの言語活動との連携を図ることも大切である。

〈令和4年度県学習状況調査を踏まえて（国語）〉

令和4年度県学習状況調査実施報告書において、本県の中学生は〔知識及び技能〕の「(2) 情報の扱い方に関する事項」と〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の「精査・解釈」に課題があると分析した。

〔知識及び技能〕の「(2) 情報の扱い方に関する事項」については、いわゆる思考ツールを用いた情報の整理の仕方を理解していない生徒が多かった。課題として、複数の情報の共通点と相違点を明らかにすることができていないと考えられる。今後の指導に当たっては、まず、思考ツールを用いた分析により習得した〔知識及び技能（情報の整理）〕を活用して、〔思考力、判断力、表現力等〕のどの力の育成に結び付けるようにするか、という関連性を明らかにすることが大切である。そして、それぞれの思考ツールで分析することのよさを理解し、使うことができる学習活動を設定することが必要である。

〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」領域の「精査・解釈」に関する事項については、語句について説明している情報を間違えて指摘していることが分かった。課題として、目的に応じて、文章全体の中から中心となっている部分や筆者の主張に関連する部分を見付けることができていないことが考えられる。今後の指導に当たっては、文章全体の中から目的に応じて必要な情報を読み取ったり、要約したりすることが必要である。

【令和4年度学習状況調査実施報告書より】

令和5年度の全国学力・学習状況調査においても、〔知識及び技能〕「情報の扱い方に関する事項」において、情報と情報との関係について理解すること、〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」領域の「精査・解釈」に関する事項に課題が見られた。

「情報の扱い方に関する事項」に関しては、相手の考えを理解したり自分の思いや考えを表現したりするためには、話や文章の中に含まれている情報と情報とがどのように結び付いているかを捉えたり、整理したりすることが必要となる。そのために、原因と結果、意見と根拠、具体と抽象など情報と情報の関係について理解することが求められる。

指導に当たっては、例えば、〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」の(1)「イ 自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。」、「B書くこと」の(1)「イ 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えること。」、「ウ 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。」、「C読むこと」の(1)「ア 文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。」などとの関連を図ることが考えられる。

〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」領域の「精査・解釈」に関する事項に関しては、説明的な文章を読む際には、目的に応じて必要な情報に着目して要約して内容を解釈することが求められる。その場合、目的を明確にした上で要約に取り組むようにするとともに、要約したものが目的に沿っているかどうかを考え、必要な情報を正確に捉えて要約できるようにすることが重要である。

「C読むこと」の学習においては、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成、共有」

に関する各指導事項を各学年において身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。また、生徒の日常の読書活動に結び付くように指導することも重要である。

※授業改善の具体例

以下の資料を併せて参照してください。

- ・令和4年度学習状況調査実施報告書
- ・令和5年度全国学力・学習状況調査報告書
- ・令和5年度全国学力・学習状況調査報告書の結果を踏まえた授業アイデア例

Ⅲ 数学

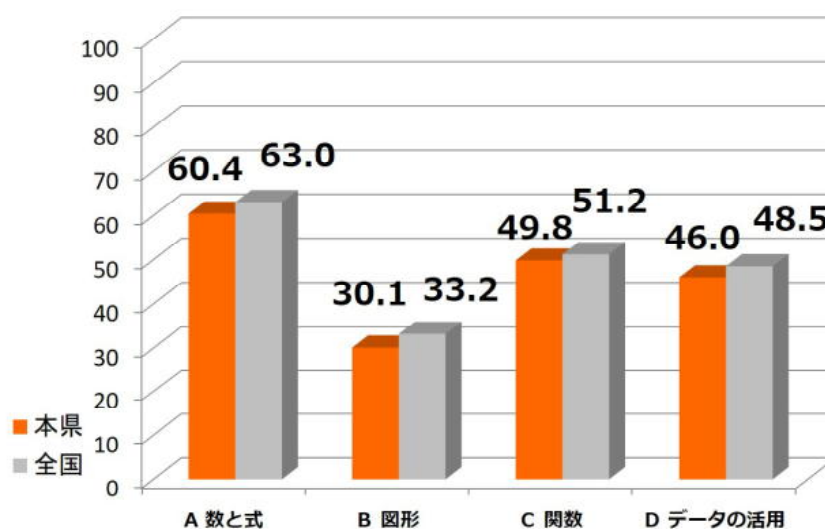
1 教科全体の結果

数学の平均正答率（％）		
青森県	全国平均との差	令和４年度全国平均との差
49	-2	+0.6

□ 本県の数学の平均正答率は、全国よりやや下回っている。

2 領域別の正答率

分 類	区 分	平均正答率		
		青森県	全国比	令和４年度全国平均との差
学習指導要領の領域	数と式	60.4	-2.6	+3.2
	図形	30.1	-3.1	-0.9
	関数	49.8	-1.4	-1.4
	データの活用	46.0	-2.5	-2.4
評価の観点	知識・技能	53.7	-2.0	+1.2
	思考・判断・表現	38.6	-3.0	-1.9
	主体的に学習に取り組む態度			



□ 数と式、図形、関数及びデータの活用のすべての領域において、平均正答率は全国平均よりやや下回っている。

3 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	青森県(公立)	全国(公立)	全国との差
1	-5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	1(1) ア(7)				○			○			40.0	46.1	-6.1
2	$12(x/4 + y/6)$ を計算する	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる	2(1) ア(7)				○				○		80.1	80.5	-0.4
3	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる		1(2) ア(7)			○			○			27.0	30.4	-3.4
4	yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ	反比例の意味を理解しているかどうかをみる			1(1) ア(4)		○			○			44.9	42.8	2.1
5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる				1(1) ア(7)	○				○		42.6	46.1	-3.5
6(1)	はじめの数が11のとき、はじめの数にかける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる	1(1) ア(7)				○				○		88.3	88.9	-0.6
6(2)	はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を变形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2(1) ア(4)					○				○	55.3	58.8	-3.5
6(3)	はじめの数にかける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる	2(1) イ(4)					○				○	38.6	40.9	-2.3
7(1)	1961年～1975年の四分位範囲を求める	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる				2(1) ア(7)	○				○		64.8	65.7	-0.9
7(2)	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				2(1) イ(7)		○				○	30.6	33.6	-3.0
8(1)	晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる			2(1) ア(7) イ(7)		○				○		53.8	57.5	-3.7
8(2)	二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる			2(1) ア(4)		○				○		59.0	61.7	-2.7
8(3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる			2(1) イ(4)			○				○	41.6	42.8	-1.2
9(1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を用いて、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる		2(1) イ(7)				○				○	27.1	32.1	-5.0
9(2)	二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる		2(2) ア(4) イ(7)			○				○		36.2	37.0	-0.8

4 問題別集計結果の状況

○良好であること

○関数

- ・反比例の意味を理解しているかどうかをみる。
（【4】対全国比：+2. 1）

▼課題であること

○A 数と式

- ・自然数の意味を理解しているかどうかをみる。
（【1】対全国比：-6. 1）
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。
（【6（2）】対全国比：-3. 5）
- ・結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる。
（【6（3）】対全国比：-2. 3）

○B 図形

- ・空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる。
（【3】対全国比：-3. 4）
- ・ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる。
（【9（1）】対全国比：-5. 0）

○C 関数

- ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる。
（【8（1）】対全国比：-3. 7）
- ・事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる。
（【8（2）】対全国比：-2. 7）
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。
（【8（3）】対全国比：-1. 2）

○D データの活用

- ・累積度数の意味を理解しているかどうかをみる。
（【5】対全国比：-3. 5）
- ・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。
（【7（2）】対全国比：-3. 0）

学習指導に当たって

数と式

- ・数の集合を捉え直し、自然数や整数の意味を理解できるようにする。
- ・数の範囲に着目して様々な事象を考察し、表現することができるようにする。
- ・文字を用いた式の計算ができるようにする。
- ・数学的に問題解決するために、文字を用いた式の計算や処理を的確にできるようにする。
- ・与えられた問題場面について具体的な数を用いて考察の対象を捉えることができるようにする。
- ・事柄が成り立つ理由を、構想を立て、根拠を明確にして説明できるようにする。
- ・結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って捉え、見いだした事柄を数学的に表現できるようにする。

図形

- ・空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを観察や操作などの活動を通して理解できるようにする。
- ・身の回りにある事象を図形として捉え考察することを通して、空間における平面について理解を深められるようにする。
- ・事柄が成り立つことについて、構想を立て、それに基づいて証明することができるようにする。
- ・証明を振り返り、図形の性質を論理的に考察することができるようにする。

関数

- ・反比例の意味を理解できるようにする。
- ・伴って変わる二つの数量の間にどのような関数関係があるかを判断できるようにする。
- ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるようにする。
- ・数学的に表現された結果を事象に即して解釈することができるようにする。
- ・問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする。

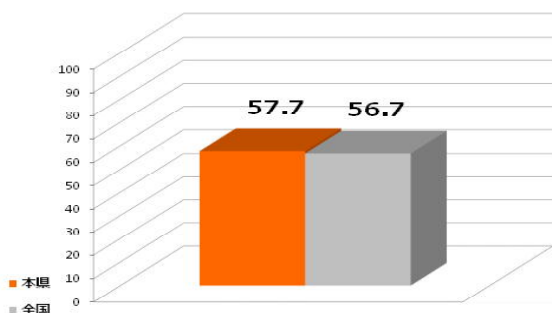
データの活用

- ・累積度数の必要性和意味を理解できるようにする。
- ・目的に応じて度数分布表やヒストグラム、代表値などを用いてデータの分布の傾向を読み取ることができるようにする。
- ・四分位範囲の必要性和意味について理解できるようにする。
- ・データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにする。

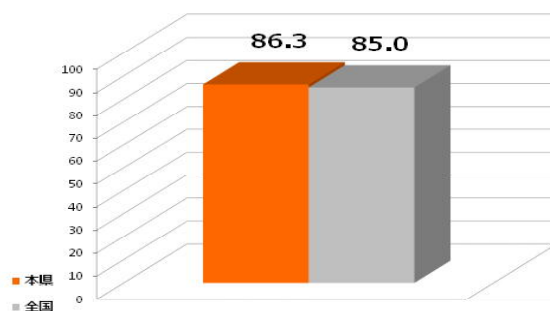
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県生徒の状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した生徒の割合（％）】

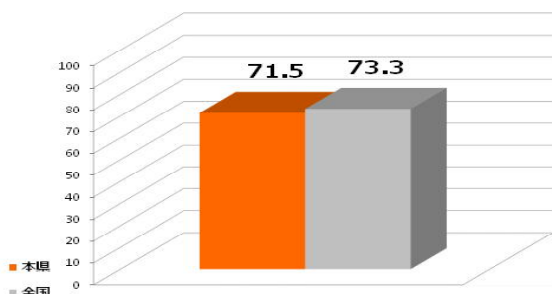
【(55) 数学の勉強が好きか】



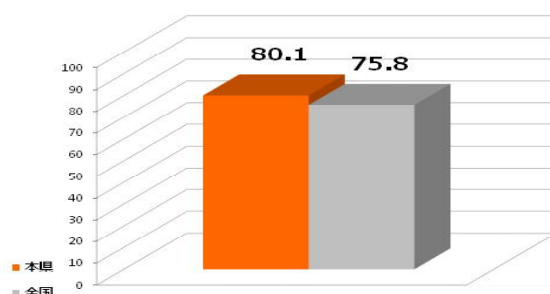
【(56) 数学の勉強は大切な】



【(57) 数学の授業の内容はよく分かる】

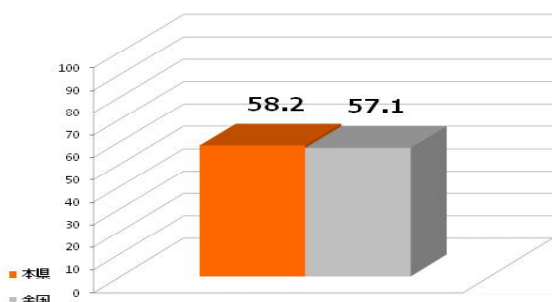


【(58) 数学の授業で学習したことは、将来役に立つと思う】



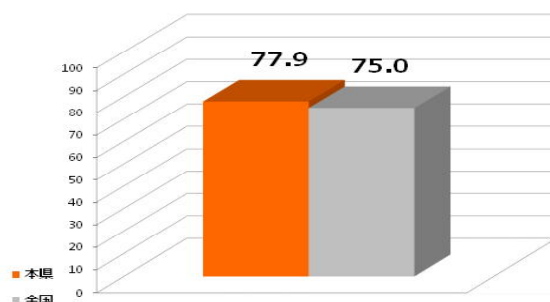
【全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力したと回答した生徒の割合（％）】

【(数1) 解答を数、式を使って説明する問題をどのように解答したか】



【時間が余った・ちょうどよかったと回答した生徒の割合（％）】

【(数2) 解答時間は十分だったか】

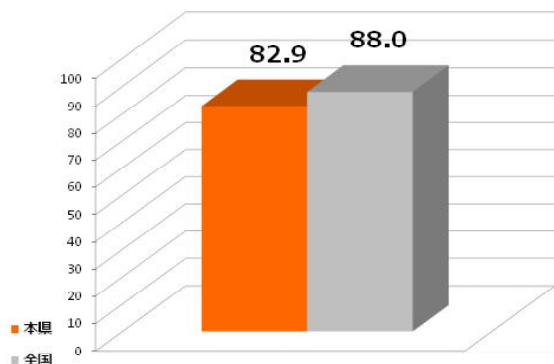


- 5割程度の生徒が、数学の勉強が好きと答え、全国平均と同程度となっている。
- 8割以上の生徒が、数学の勉強は大切である、数学の授業で学習したことは、将来役に立つと考えている。
- 約6割の生徒が解答を言葉や数、式を使って説明する問題を最後まで解答を書こうと努力し、解答時間については、時間が余った又はちょうどよかったと回答した生徒は約8割に達している。
- ▼ 7割の生徒が数学の授業の内容はよく分かったと答えているが、全国平均をやや下回っている。

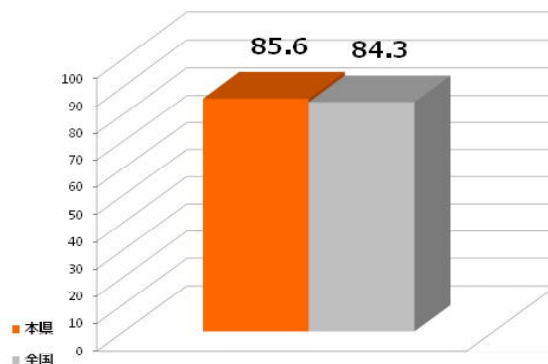
6 学校質問紙調査の結果から見える数学の指導状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した学校の割合（％）】

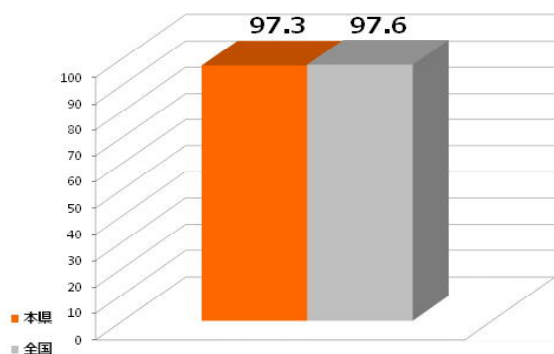
【(46) 実生活における事象との関連を図った授業を行ったか】



【(47) 観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行ったか】



【(48) 公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していたか】



- 数学の指導として、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行った割合が、全国平均をやや上回っている。
- 数学の指導として、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していたかの割合は、全国平均とほぼ同程度で、9割以上である。
- ▼数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行っている割合が、全国平均を下回っている。

7 指導改善のポイント

(1) 各領域について（令和5年度全国学力・学習状況調査報告書より）

A 数と式

◆ 事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明する活動の重視

予想した事柄である「はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になる。」が成り立つことを説明するために、計算結果を表した式を「 $3 \times (\text{整数})$ 」の形にすればよいという見通しをもって、式を変形できるようにすることが大切である。

◆ 予想した事柄が成り立つかどうかを具体的な数や文字式を用いて調べる活動の充実

事柄が成り立つことの説明を振り返り、新たに成り立ちそうな事柄を予想する活動を取り入れることが大切である。また、予想が成り立たない場合にも、それまでの問題解決の過程や結果を基にして、その理由を考察したり、結論が成り立つための前提を捉えたりする活動を取り入れることも大切である。

B 図形

◆ 身の回りにある事象を図形として捉え考察する活動の重視

身の回りにある事象から、空間において平面が一つに決まる条件を見だし、実感を伴って理解することができるよう指導することが大切である。例えば、カメラを固定する「一脚」と「三脚」を取り上げ、「三脚が、安定して立つことができるのはどうしてか」といった身の回りにある事象から問題を設定し、その理由を考察する活動を設定することが考えられる。

◆ 証明を振り返り、図形の性質を論理的に考察する活動の充実

ある事柄の条件を変えた場合について考察する場面では、証明を振り返り、証明に用いた前提や根拠を整理するなどして、図形の性質を論理的に考察し表現することができるようにすることが大切である。こうした活動を通して、自ら条件を変えた場合について考察しようとしたり、数量や図形の性質を成り立たせる本質的な条件を見いだそうとしたりする態度を育てることが大切である。

C 関数

◆ 数学的に表現された結果を事象に即して解釈する活動の重視

グラフが直線で表されていることから理想化・単純化されているものを確認するなど、数学的に表現された結果を事象に即して解釈する活動を取り入れることが大切である。その際、グラフが直線であるということから、それぞれの走る速さは一定であると考えたことになると捉えられるようにすることが大切である。

◆ 事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実

様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、表、式、グラフなどを用いて、それらをどう用いたかについて数学的に説明する活動を充実することが大切である。その際、追いつく地点は二つのグラフの交点のy座標に表れることを確認し、グラフの交点のy座標を読み取ればよいことなど問題解決の方法について説明できるようにすることが大切である。

D データの活用

◆ 度数分布表やヒストグラム、代表値などを用いてデータの分布の傾向を捉える活動の重視

代表値を求めたり度数分布表やヒストグラムに表したりしてデータの分布の傾向を読み取る活動を取り入れることが大切である。その際、根拠として代表値や累積度数などの指標を用いることができるようにすることが大切である。

◆ データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を説明する活動の充実

データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるようにすることが大切である。その際、判断の根拠を箱ひげ図の箱の位置や四分位数などを用いて説明できるようにすることが大切である。

(2) 質問紙調査の結果を踏まえて

生徒質問紙

「数学の勉強は好きである」

「数学の授業はよく分る」

「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」

上記のように回答している生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られ、本県は、上記の質問において全国平均よりやや上回っている。この結果から、生徒の数学に対する興味・関心や授業の理解度等は、全国平均と比較するとやや高い状況にある。

学校質問紙

「観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行った」の質問については、令和4年度と比べて、7.2ポイント高く、全国平均と比べてもやや上回っており、数学の指導において図形の性質を見いだすことや統合的・発展的に考察することができるよう、観察や操作、実験などの活動を行っている様子が見られる。

一方で、「実生活における事象との関連を図った授業を行った」の質問については、令和4年度と比べ5.2ポイント高くなったものの、全国平均を5.1ポイント下回っており、日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ることが大切である。

このように生徒質問紙と学校質問紙の結果から、各領域について以下の指導をすることが重要である。

A 数と式

◆ 問題解決の過程や結果を振り返りながら、発展的に考察することができるように指導することが重要

数学の事象から問題を見だし、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察できるようにすることが大切である。

例えば、「はじめの数としてどんな整数を入れても、計算結果は3の倍数になる。」が成り立つことを説明できたことから、その前提を変えた場合について、計算結果がどのような数になるのかを予想して、その予想が成り立つことを説明したり、説明を振り返って新たに成り立ちそうな事柄を予想したりする活動を設定することが大切である。また、予想が成り立たない場合にも、それまでの問題解決の過程や結果を基にして、その理由を考察し、結論が成り立つための前提を捉える活動を設定することが大切である。このような活動を通して、前提を変えた場合について、成り立つ事柄を予想してその予想が成り立つかどうかを調べたり、既に解決された問題の解決過程や結果を振り返って問題の前提と結論を関連付けて捉えたりするなど、発展的に考察することができるようにすることが大切である。

B 図形

◆ 観察や操作、実験などの活動を通して、図形の性質を見いだすことや、統合的・発展的に考察することができるように指導することが重要

図形の性質を考察する場面では、観察や操作、実験などの活動を通して、予想した事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えることができるようにするとともに、条件を変えるなどして統合的・発展的に考察することができるようにすることが大切である。

例えば、厚紙で作った二つの合同な三角形を用いたり、図をかいたりするなどの具体的な操作を通して、三角形の条件を変えた場合にひける二つの直線の関係を予想する場面を設定することが大切である。その上で、予想した事柄が成り立つことを証明することや、条件を変えた場合に結論が成り立たなくなる理由を、証明を振り返って考えることができるようにすることが大切である。

さらに、例えば、合同な二つの二等辺三角形であることの他に、平行であるという結論を成り立たせるために必要な二つの三角形の条件を考えたり、二等辺三角形ではない合同な二つの三角形で平行線がひけるように操作の仕方を検討したりするなど、統合的・発展的に考察する活動を設定することも考えられる。

このように、一旦解決された問題やその解決過程を振り返り、問題の条件を見直したり、共通する条件や図形の性質を見いだしたりすることを通して、統合的・発展的に考察することができるようにすることが大切である。

C 関数

◆ 日常生活や社会事象における問題の解決に数学を活用できるように指導することが重要

具体的な場面において、事象を理想化したり単純化したりして、日常生活や社会の事象における問題を数学の問題として捉え、数学を活用して解決できるように指導することが大切である。さらに、その解決の過程や結果を振り返り、新たな問題を見いだすなど、日常生活や社会の事象の考察や問題解決に数学を活用する態度を育成することが大切である。

例えば、問8のように、駅伝についての速報を提示し、新緑大学が晴天大学に追いつく地点を予想する場面を設定することが考えられる。その際、新緑大学が晴天大学に追いつきそうであることは分かるが、速報からどの地点で追いつくのかを予想することは難しいことを確認することが考えられる。そこで、晴天大学と新緑大学の6区の各地点の記録を表にまとめ、グラフに表すと追いつく地点が分かるのではないかとといった問題解決の見通しや構想を立てることが大切である。その上で、まとめた表から「走った時間が決まると、走った道のりが決まる」ことを読み取り、「走った道のりは、走った時間の関数である」と捉え、二人の選手の走る速さがそれぞれ一定であると仮定して考えるなど理想化したり単純化したりして、走った道のりは走った時間の一次関数であるとみなして、新緑大学が晴天大学に追いつく地点について話し合う活動を設定することが考えられる。

D データの活用

◆ 目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って批判的に考察し判断することを通して、統計的に問題解決することができるように指導することが重要

日常生活や社会の事象を題材とした問題などを取り上げ、統計的に問題解決することができるように指導することが大切である。その際、問題を解決するために計画を立て、必要なデータを収集して処理し、データの分布の傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動を充実させることが大切である。

例えば、自分たちが住む地域の黄葉日の傾向を調べるため、過去60年分の記録をまとめたデータをインターネットなどを利用して収集し、分析する場面を設定することが考えられる。具体的には、黄葉日が以前と比べてどのような傾向にあるのかを調べるために折れ線グラフに表したり、15年ごとの四つのまとまりに分けて箱ひげ図に表したりする場面を設定

することが考えられる。

その上で、年代が進むにつれて箱の位置がどのように変わっているかに着目して、黄葉日が遅くなっている傾向にあると主張できる根拠について話し合う活動を取り入れることも考えられる。その際、箱ひげ図から読み取ったデータの特徴を根拠としてよいかどうかを考えるなど、批判的に考察できるように指導することが大切である。

なお、インターネットなどの情報通信ネットワークを活用してデータを収集する場合は、二次的なデータが多くなると考えられるので、誰がどのようにして調べた結果であるのかなど、その信頼性についても批判的に考察する必要がある。

＜令和４年度県学習状況調査を踏まえて（数学）＞

令和４年度学習状況調査実施報告書において、本県の中学生は内容・領域別にみた状況では「数と式」と「データの活用」の領域に課題があると分析した。

「数と式」については、文字や式が何を表しているのかを読み取る活動や、他者の多様な表現に触れる機会が不足していることに課題があり、自分の考えを基に思考の過程を表現したり、他者に的確に伝えたりする活動に加えて、理解した他者の考え方を活用して課題を解決する場面を設定することが大切であるとした。また、文字や式が表していることや表現の違いに気付かせ、文字を用いることのよさを実感し、その必要性や意味を理解できるようにすることも必要であるとした。

「データの活用」については、代表値やヒストグラムなどを用いて問題を解決する過程において、どの代表値を根拠とするのか、分布のどんな形に着目して傾向を読み取るのかなど、分析した結果から得られる結論が妥当かどうか判断する力の育成に課題が見られる。日常生活を題材とした問題などを取り上げ、それを解決するために計画を立て、必要なデータを収集し、ヒストグラムや相対度数などに整理してデータの傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動を経験することが大切であるとした。

【令和４年度学習状況調査実施報告書より】

令和５年度全国学力・学習状況調査では、「数と式」については、５問出題され、県の平均正答率は、６０．４％と全国平均を２．６ポイント下回る結果となった。今後の指導に当たっては、文字を用いた式の操作は、何らかの目的があって行われるものであり、数や図形についての性質が成り立つことを説明することや、方程式を解くことなどにおいて活用するものであることを意識して指導することが大切である。

「データの活用」については３問出題され県の平均正答率は、４６．０％と全国平均を２．５ポイント下回る結果となった。今後の指導に当たっては、集団においてばらつきのある事象は、問題解決の過程を通して、ヒストグラムや箱ひげ図を作ったり、代表値や相対度数、確率を求めたりすることができるようにすることが大切である。また、日常生活や社会における問題を取り上げ、それを解決するために必要なデータを収集し、コンピュータなどを利用して処理し、データの傾向を捉え説明するという活動を経験することが必要である。また、考察の結果としてただ一つの正しい結論が導かれるとは限らないことより、自他の問題解決の過程を振り返ったり、多面的に吟味したりするなどして、批判的に考察できるようにすることも大切である。

※授業改善の具体例

以下の資料を併せて参照してください。

- ・ 令和４年度学習状況調査実施報告書
- ・ 令和５年度全国学力・学習状況調査報告書
- ・ 令和５年度全国学力・学習状況調査報告書の結果を踏まえた授業アイディア例

IV 英語

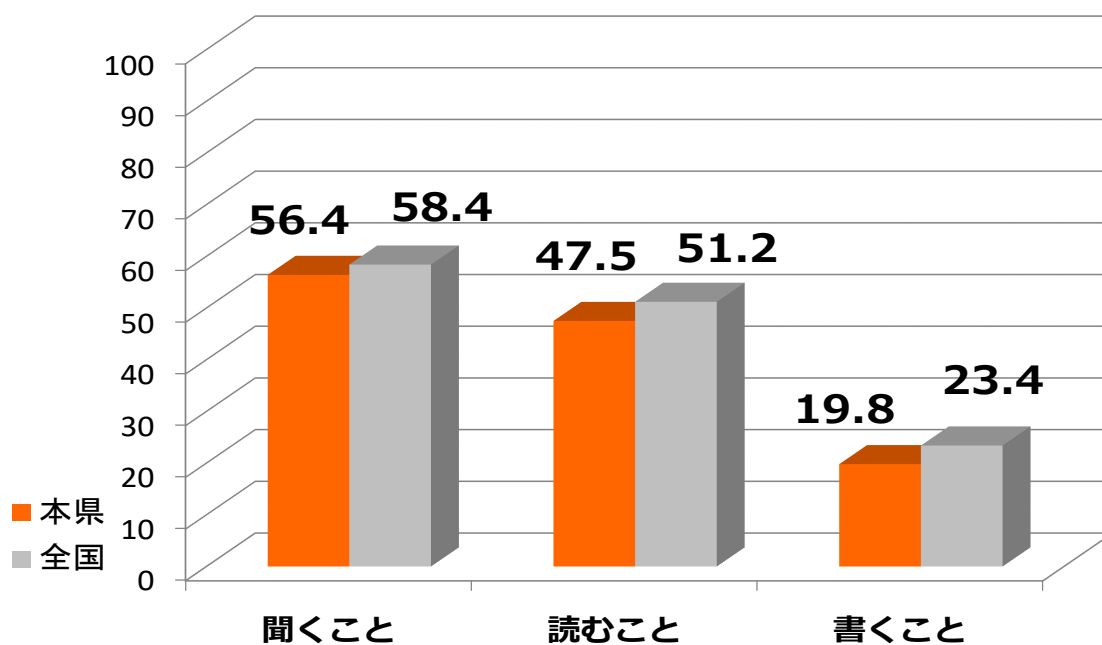
1 教科全体の結果

英語の平均正答率 (%)		
青森県	全国平均との差	令和元年度全国平均との差
42	-3.6	-1.0

□ 英語全体としては、本県は、全国平均を下回っている。

2 領域別の正答率

分類	区分	平均正答率 (%)		
		青森県	全国平均との差	令和元年度全国平均との差
学習指導要領の領域	聞くこと	56.4	-2.0	+0.4
	読むこと	47.5	-3.7	-1.8
	話すこと [やりとり]			
	話すこと [発表]			
	書くこと	19.8	-3.6	-1.3
評価の観点	知識・技能	48.3	-3.2	
	思考・判断・表現	36.0	-2.8	
	主体的に学習に取り組む態度			



□ 「聞くこと」、「読むこと」及び「書くこと」について、平均正答率は全国平均を下回っている。

3 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)		
			聞くこと	読むこと	話すこと「やり取り」	話すこと「発表」	書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	青森県	全国	全国との差
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			78.7	79.0	-0.3
1 (2)	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			64.8	64.4	0.4
1 (3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			47.2	49.8	-2.6
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア						○		○			57.9	61.1	-3.2
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア						○		○			37.8	41.2	-3.4
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ						○		○			52.0	54.8	-2.8
5 (1)	ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する	情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる		○				○			○			52.3	56.0	-3.7
5 (2)	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる		○				○			○			60.1	64.5	-4.4
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる		ア					○		○			33.0	35.9	-2.9
7 (1)	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる		○				○			○			55.0	59.8	-4.8
7 (2)	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる		イ					○		○			32.6	34.7	-2.1
8 (1)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる		ウ					○		○			52.0	56.1	-4.1
8 (2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる					ウ		○			○		15.7	19.5	-3.8
9 (1) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○			○			34.8	40.4	-5.6
9 (1) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○			○			16.4	20.9	-4.5
9 (2)	メールの英文を依頼する表現に書き換える	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○			○			24.9	29.0	-4.1
10	学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ		○			○		7.0	7.4	-0.4

4 問題別集計結果の状況

○良好であること

○聞くこと

- ・道案内の場面における会話を聞き、情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる。
（【1（2）】対全国比：＋0.4）

▼課題であること

▼「聞くこと」

- ・買物の場面における会話から、情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる。
（【1（3）】対全国比：－2.6）
- ・日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる。（【2】対全国比：－3.2）
- ・日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる。（【3】対全国比：－3.4）
- ・社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる。
（【4】対全国比：－2.8）

▼「読むこと」

- ・ある状況を描写する英文についての情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる。
（【5（1）】対全国比：－3.7）
- ・「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる。（【5（2）】対全国比：－4.4）
- ・日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる。（【6】対全国比：－2.9）
- ・文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる。
（【7（1）】対全国比：－4.8）
- ・日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる。
（【7（2）】対全国比：－2.1）
- ・社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる。
（【8（1）】対全国比：－4.1）

▼「書くこと」

- ・社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。（【8（2）】対全国比：－3.8）
- ・未来表現（be going to）の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる。
（【9（1）①】対全国比：－5.6）
- ・疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる。（【9（1）②】対全国比：－4.5）
- ・「相手の行動を促す」という言語の働き理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる。（【9（2）】対全国比：－4.1）

学習指導に当たって

聞くこと

- ・ **学習者用デジタル教科書などを活用しながら、「聞くこと」の活動を繰り返し行い、情報を正確に聞き取ることができるようにする（【１（３）】）**

特に、聞く「技能」の指導に当たっては、例えば、自然な速さで話される音声聞いて、語と語の連結による音変化や強勢による英語特有のリズム、イントネーションに慣れる活動や意味のまとまりを意識しながら区切って聞いたり音読したりする活動に取り組むことが考えられる。また、これらの学習活動を一時的なものにせず、言語活動を行う際に、継続的に行っていくことが必要である。

情報を正確に聞き取るためには、抱えている課題が「知識」の側面なのか、それとも「技能」の側面なのかを把握し、個々の課題に応じた支援をしていくことも大切である。例えば、音声の速度を調節し、ゆっくりと話された音声であれば聞き取ることができる場合には、「技能」の側面に課題があることが考えられる。こうした場合には、学習者用デジタル教科書などを活用して、音の変化に着目して特定の箇所を聞いたり、速度を落として何度も聞き直したりするように指導することが必要である。その際、個別最適な学びの観点から、生徒自身が聞く箇所や音声の速さを選択することなどが大切である。一方、ゆっくりと話された音声であっても聞き取ることができない場合には、「知識」の側面に課題があることが考えられる。こうした場合には、話された内容における語彙や表現、文法などを理解するように指導することが求められる。

- ・ **目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるようにする（【２】）**

目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取るためには、話されることの全てを詳細に聞き取ろうとするのではなく、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、自分が必要とする情報は何かを把握することが重要である。

言語活動を行うに当たっては、話されることの全てを詳細に聞き取ろうとするのではなく、目的に応じて必要な情報は何かをはっきりさせて、それらに関連する語句や表現に着目して聞き取ることができるように指導することが大切である。

- ・ **自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるようにする（【３】）**

自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取るためには、話されることの全てを聞き取ろうとするのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報かを判断した上で聞き取ることが重要である。

言語活動を行うに当たっては、自分の置かれた状況を把握できているかどうかと、何を聞き取ればよいかを理解しているかどうかを確認することが大切である。その上で、それらに関連する語句や表現に着目して、必要な情報を聞き取ることができるように指導することが考えられる。

- ・ **説明を聞いて、要点を捉えることができるようにする（【４】）**

説明を聞いて、要点を捉えることができるようにするためには、話題を把握した上で、主題とその具体例といった内容の構成を意識して情報を聞き取っていくことが重要である。日常的な話題だけでなく、自然環境問題や平和問題などの社会的な話題に関するまとまりのある内容の英語を聞く活動を取り入れることも重要である。

言語活動を行うに当たっては、説明を聞いた後、聞き取った情報を比較し、情報と情報との関係を検討し、話し手が最も伝えたいことを捉えることが大切である。その後、ペアやグループで、話し手が最も伝えたいことだと判断した根拠を比較し合う学習場面を設定することが考えられる。なお、説明のスク립トを読み、内容の構成や要点を捉えるための手掛かりとなる語句や表現に着目することができるように指導することも大切である。

読むこと

- ・ **意味のまとまりを捉えながら、情報を正確に読み取ることができるようにする（【５（１）】）**

短い文章から情報を正確に読み取るには、既習の語や文法事項等の知識を活用して、文構

造を適切に捉え、書かれている情報を読み取っていくことが重要である。

指導に当たっては、英文を読む際に、主語や動詞などの意味のまとまりを捉えながら読み進めることが大切である。また、絵や写真、グラフなどを説明する英文を正確に読み取るためには、I または you 以外の主語や無生物が主語になる英文を使って事実を伝える活動を行うことも大切である。

・ **事実と考えを区別しながら、情報を正確に読み取ることができるようにする（【５（２）】）**

情報を正確に読み取るためには、単に語彙の意味や文法事項の形式が分かったり、英語を日本語に訳すことができたりするだけではなく、書かれている英文に含まれている情報を、事実や考え、気持ちなどに区別しながら読み進める技能を身に付けることが重要である。

学習活動を行うに当たっては、言語の働きを理解するとともに、英文を読む際に、使用されている語彙や慣用表現、文法事項などを手掛かりに、事実を述べているか、考えを述べているかを確認することが大切である。こうした読むことの「技能」は必要な情報を読み取ったり、概要や要点を捉えたりする読み方につながっていくため、言語活動を行う際に、適宜指導することが必要である。

・ **自分の置かれた状況などから判断して、複数の情報が含まれる文章から必要な情報を読み取ることができるようにする（【６】）**

自分の置かれた状況などから判断して、複数の情報が含まれる文章から必要な情報を読み取るためには、書かれていることの全てを読み取ろうとするのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報であるのか判断した上で読み取ることが重要である。

言語活動を行うに当たっては、日常的な話題に関して、できるだけ現実に近い場面を設定するとともに、文の一語一語の意味を全て理解する逐語的な読みから脱却し、自分が必要とする情報を読み取ることが大切である。その際、必要な情報と不要な情報を整理しながら読むといった指導が考えられる。

・ **説明文を読んで、概要を捉えることができるようにする（【７（１）（２）】）**

説明文を読んで、概要を捉えるためには、段落内の文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容を捉えることが重要である。

言語活動を行うに当たっては、語と語の関連や代名詞、接続表現などを手掛かりにしながら、段落内の情報の関係を正確に把握することが大切である。また、各段落の主な内容を関係付けていくことにより、文章全体の大まかな内容を捉えることも求められる。なお、英文を読んで概要を捉える際には、説明文や物語など読んでいる題材に応じた指導を心掛けることが大切である。例えば、説明文の場合には、各段落の主な内容を集めたものを概要として捉えることが考えられるが、物語の場合には、時間の流れに沿ったあらすじを概要として捉えることが考えられる。このように、読んでいる英文の題材に応じて様々な概要の捉え方を指導することが求められる。

・ **意見文を読んで、要点を捉えることができるようにする（【８（１）】）**

意見文を読んで、要点を捉えるためには、文章全体を通して読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何かを判断して捉えることが重要である。

言語活動を行うに当たっては、繰り返し用いられている語句や同じ内容を言い換えている表現、文章中の問いかけなどを手掛かりにして最も大切な語句や文を選んだり、段落内の文章の構成を把握したりすることが大切である。なお、複数の段落からなる文章を読んで、要点を捉えることも大切である。その際には、段落相互の関係を捉える指導などが考えられる。

書くこと

・ **読んだことを基に自分の考えとその理由を書くことができるようにする（【８（２）】）**

読んだことを基に自分の考えとその理由を書く際には、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて表現することが重要である。

言語活動を行うに当たっては、読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域を統合した言語活動を行

うことが大切である。また、書いた英文を推敲する際には、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて適切な内容になっているか、正確に書くことができているかを指導する必要がある。内容や表現を改善していく上で、書いた英文に対して教師がフィードバックを与えたり、他の生徒からコメントをもらったりすることも大切である。

・ **場面や状況から文の形式や時制を適切に判断し、正確に書くことができるようにする** **【(9(1)①②)】**

場面や状況に応じて正確に英文を書くためには、文脈から適切な文の形式や時制を判断することが大切である。その上で、意味内容の伝達のみにとどまるのではなく、生徒自身が英語表現の誤りに気づき、修正を加えながら正確さを高めていくことが必要である。

指導に当たっては、文脈に応じて理解した文法事項を正しく活用したり、活用することを通して文法事項を理解したりする活動や書いた英文が相手に正しく伝わるかどうかについて、生徒自身が読み直して誤りを修正したり、ペアでチェックし合ったりして正確な英文に書き直す学習活動に取り組むことが考えられる。特に、大問9(1)②においては疑問文についての理解が不十分であることがうかがえる。疑問文を実際のコミュニケーションにおいて正しく活用できるようになるまでには時間を要するため、疑問文を用いて話したり書いたりすることを、3年間を通じて継続的に行うことが大切である。例えば、教師が用意した質問で言語活動を始めるのではなく、生徒自身が教師や外国語指導助手(ALT)に質問する場面や生徒同士で質問し合う場面を設定したり、自分が質問したことを書き出して正しく書くことができているか確認したりするなど、適宜正確さを高める指導を行うことが大切である。

・ **関連のある文法事項をまとめて整理し、正確に書くことができるようにする** **【(9(1)①②)】**

既習の文法事項を適切に使分けられるようになるためには、関連のある文法事項をまとめて整理し、使い方の理解を深めることが大切である。その上で、再び意味のある文脈の中でより適切な表現を選択して活用することも大切である。例えば、大問9(1)①においては、会話の流れから未来表現を用いて書くことを理解した上で、会話をしている時点からみてこれから先のことを表す未来表現(will)よりも、すでに予定されていることを表す未来表現(be going to)を用いて書く方がより適切であると判断する必要がある。

指導に当たっては、既習の文法事項と新しく学んだ文法事項とを比較し、共通点や相違点を考える活動や意味のある文脈を設定し、適切な表現を選択して書く学習に取り組むことが考えられる。学習活動を行うに当たっては、現在形や過去形を学習した後、時制として整理したり、to不定詞や関係代名詞などを修飾という側面から整理したりするなど、関連のある文法事項については、より大きく分類して整理して理解することが必要である。

・ **言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分けられることができるようにする** **【(9(2))】**

言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分けられるためには、言語の使用場面やコミュニケーションを行う相手との関係性を意識し、場面や状況に応じた適切な表現を選択することが重要である。

指導に当たっては、教科書における登場人物の設定を変更し、適切な表現や言い方に直して音読する活動や「親しい生徒同士」や「生徒と姉妹都市の市長」といった関係性の異なる相手を複数設定し、それぞれにおけるロールプレイを比較しながら表現を使い分ける活動、既習の表現を同じ言語の働きごとに分類したり、同じ言語の働きをもつ表現同士を比較して相違点を考えたりする活動、中学校国語科第2学年において「相手の行動を促す」という言葉の働きを扱っていることを踏まえ、国語科の指導と関連付けて言語の働きを理解し、英語における「相手の行動を促す」という言語の働きを類推する学習活動に取り組むことが考えられる。

学習活動を行うに当たっては、実際のコミュニケーションにおいて複数の表現を取り上げた上で、使用した表現を共有し、分類や比較を通して表現がもつ言語の働きを考えることが大切である。また、理解した言語の働きを別の文脈においても活用できるようにするために、異なる場面や状況を設定して、同じ言語の働きをもつ表現を使い分ける活動を繰り返し行うことが考えられる。

- ・ **テーマについて事実や考えを整理し、文章構成を判断して、文と文のつながりなどに注意しながらまとまりのある文章を書くことができるようにする**（【10】）

テーマについてまとまりのある文章を書くためには、テーマについて事実や考えを整理し、どのように書けばよりよく読み手に伝わるのかを考えながら書くことが重要である。その際、テーマについて書く内容を想起できるようにすることや、伝えたい内容を読み手に正しく伝えるために、語や文法事項等を理解して文章を書くことができるように指導することが必要である。さらに、説明文を書く際には、「主題とその具体例」、意見文を書く際には、「最も伝えたいこととその理由」など、目的に応じて文章構成を判断するように指導することも大切である。

指導に当たっては、学校生活や家庭生活における出来事について、電子メールや手紙、日記、レポート、スピーチ原稿などの形式により、事実を伝えたり、出来事を描写したりする文章を書く活動や身近な話題や生徒の体験について、手紙や電子メール、新聞の投稿欄などの形式により、自分の考えや気持ちなどが伝わるように文章を書く言語活動に取り組むことが考えられる。

言語活動を行うに当たっては、書く内容を目的に応じて選んだり、どういう構成がよいか判断したり、相手や目的によって表現を工夫したりすることが大切である。また、書き表したものをペアやグループで読み合い、言語面での気付きを共有したり、内容や構成、表現方法について質問したり、コメントを述べたりし、その内容を参考に推敲するなど、それぞれの言語活動を関連付けた段階的な指導を行うことが必要である。なお、まとまりのある文章を書くことができるようになるためには、読むことの活動を書くことの活動につなげていく指導を行うことも大切である。例えば、文章構成を考えながら概要や要点を把握したり、「導入－本論－結論」や「主題－根拠や具体－主題の言い換えや要約」など、文章構成の特徴を意識しながら、全体として一貫性のある文章を書いたりすることが考えられる。

話すこと（結果は公表されないが、指導に当たってのポイントを示すこととする）

- ・ **基本的な表現を理解して、即興で伝え合うことができるようにする**（【1】（1））

日本語で書かれた看板やポスターなどの情報を英語で説明することは、生徒が日常生活で行う可能性が高い言語活動であり、その際、基本的な語彙や表現を理解して正しく伝えることが重要である。

指導に当たっては、身の回りのことで生徒が共通して関心をもっていることについて、即興で相手と事実や意見、気持ちなどを伝え合いながら、会話を継続・発展させる言語活動に取り組むことが考えられる。

言語活動を行うに当たっては、小学校から慣れ親しんでいる月日や序数、数字、誕生日などに関する語彙や表現を繰り返し使用させることで確実に定着を図る必要がある。その際、紛らわしい発音や共通して間違いが見られる表現などについては、焦点化して指導を行うことも考えられる。やり取りの指導においては、文法指導を言語活動と切り離して行うのではなく、場面や状況の設定を工夫し、言語活動を通して発話の正確さを高めたり、質問に対して不適切な間を置かずに応答したりすることができるようにすることが大切である。

- ・ **基本的な文法事項を理解して、即興で伝え合うことができるようにする**（【1】（2））

基本的な文法事項を理解して、即興で伝え合うことができるようにするには、文法事項の形式や意味の理解に加え、どのような場面で使用できるのか理解すること、そして実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることが重要である。

指導に当たっては、身の回りのことで生徒が共通して関心をもっていることについて、即興で相手と事実や意見、気持ちなどを伝え合いながら、会話を継続・発展させる言語活動に取り組むことが考えられる。

言語活動を行うに当たっては、内容の伝達に重点を置きながらも、生徒が自ら発話した表現を書き出して修正点を考えたり、発話の正確さの観点から教師がフィードバックを与えたりするなどして、正確さに意識を向けることが求められる。また、相手の質問を踏まえて、どの部分に強勢を置いて発話するとよいのか考えさせるなど、基本的な音声の特徴について指導を行うことも大切である。さらに、生徒の学習段階を踏まえつつ、自然なやり取りとなるように、不適切な間を置かずに相手と事実や意見、気持ちなどを伝え合うようにすることも大切である。中学校でのやり取りの指導では、小学校でどのような語彙や表現を使用して

いるか把握し、同じ言語材料を繰り返し使用させることで確実な定着を図ったり、異なる言語材料を使用させることで表現内容の広がりや深まりをもたせたりすることも大切である。

・ **対話を継続・発展させるために、関連する質問をすることができるようにする（【1】（3））**

対話を継続・発展させるためには、相手に聞き返したり確かめたりすることや、相づちを打ったり、つなぎ言葉を用いたりすること、相手の答えを受けて、自分のことを伝えることだけでなく、相手の答えや自分のことについて伝えたことに関連する質問を付け加えることが重要である。

指導に当たっては、会話の流れに応じて関連する多様な質問を即座にする言語活動に取り組むことが考えられる。

言語活動を行うに当たっては、Yes-No 疑問文やor を含む選択疑問文、Wh-疑問文などについて、語順、動詞の形の変化、イントネーションなどを意識するよう指導者が声かけをすることが大切である。また、疑問文を実際のコミュニケーションにおいて正しく活用できるまでには時間を要するため、疑問文を用いて話したり書いたりすることを、3年間を通じて継続的にすることも大切である。例えば、教師が用意した質問で言語活動を始めるのではなく、生徒自身が教師や外国語指導助手（ALT）に質問する場面や生徒同士で質問し合う場面を設定し、適宜正確さを高める指導を行うことが考えられる。

・ **聞いたことを基に自分の考えとその理由を述べ合うことができるようにする（【1】（4））**

聞いたことを基に自分の考えとその理由などを述べ合うことができるようにするためには、相手の主張や質問を理解するために聞いたり、自分の考えや理由を話す際に必要となる表現や情報などを得るために聞いたりするという目的を明確にするなど、他の領域の言語活動と関連させることが重要である。

指導に当たっては、ある話題に関する教師や生徒の発話、映像や音声の教材など様々な媒体から得た情報や考えなどについて、ペアやグループでお互いに意見を出し合ったり、情報を交換したりする活動や社会で起こっている事象について、どのような考えが望ましいのか、自分であればどのような行動をとるのか、またその理由を説明したり、逆に相手により詳しい説明を求めたりする言語活動に取り組むことが考えられる。

言語活動を行うに当たっては、聞く活動を行う前に教師と生徒、または生徒同士がやり取りを行い、テーマに関連した情報や必要となる語彙や表現を共有したり整理したりすることが大切である。意見などを形成する段階において生徒が発話した語句を取り上げ、それを基に簡単な文として言い換えて例示することが考えられる。その際、生徒の習熟の程度を考慮し、考えを整理するための時間を設定したり、メモを作成したりすることも考えられる。さらに、生徒が自分の意見を理由とともに述べ合う際には、生徒の多様な考え方が生かされるように指導することも大切である。

・ **聞いたことを基に自分の考えとその理由を話すことができるようにする（【2】）**

聞いたことを基に自分の考えとその理由を話す際には、話される内容を理解した上で、聞いて得た知識や情報について自分の考えやその理由を整理し、既習の表現などを活用して相手に伝わるように話すことが重要である。

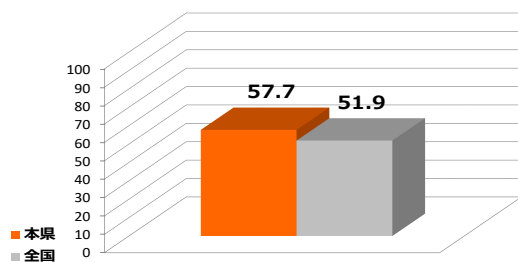
指導に当たっては、聞いて得た知識や情報のメモを基に、内容を口頭で要約して伝えたり、自分が一番印象に残った内容や興味をもった情報を伝えたりする活動や聞いたことについてなぜそのように考えたのか、感じたのか、簡単な理由や根拠、例示などを伝えたり質問したりする言語活動に取り組むことが考えられる。

言語活動を行う際には、複数の領域を統合した言語活動の充実を図ること、メモの取り方や活用の仕方についての指導を行うこと、聞いたり読んだりしたことについて、生徒自身の考えを述べる指導を行うこと、言語活動と合わせて発話の正確さを高めるための指導を行うことに留意することが大切である。

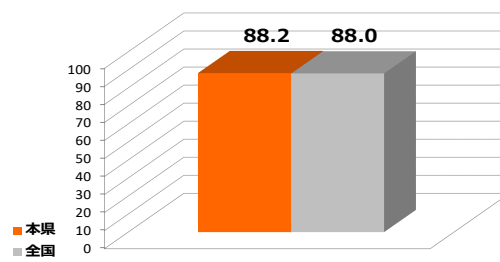
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県生徒の状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した生徒の割合（％）】

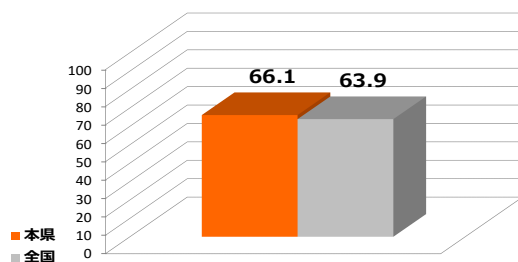
【（５９）英語の勉強は好きか】



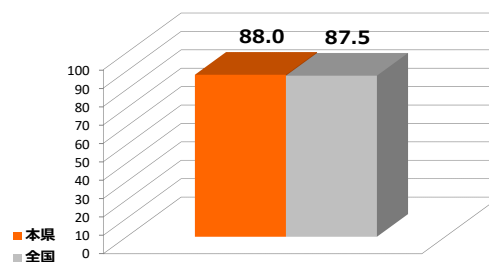
【（６０）英語の勉強は大切な】



【（６１）英語の授業はよく分かる】



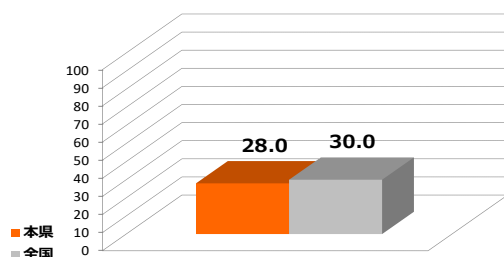
【（６２）英語の授業で学習したことは、将来役に立つと思う】



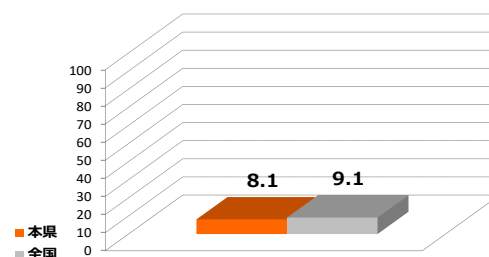
□生徒の英語の学習に対する興味・関心や授業の理解度等は概ね良好な状況にあり、英語の勉強が好きだと思ふ生徒の割合は全国平均を上回っている。

□約９割の生徒が、英語の授業で学習したことは、将来役に立つと考えている。

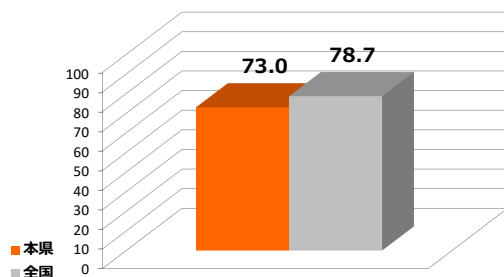
【（６４）英語を授業以外で使う】



【（６５）家庭学習でICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり話したりする練習をした】



【（６９）まとまった内容を英語で発表する活動が行われていた】



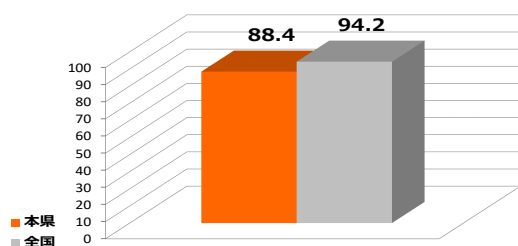
▼本県の生徒は、授業以外で日常的に英語を使う機会が全国平均と比べて少ない状況にある。

▼本県の生徒は、英語の授業でスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動の経験が全国平均と比べて少ない状況にある。

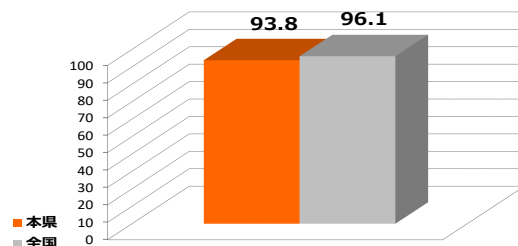
6 学校質問紙調査の結果から見える英語の指導状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した学校の割合（％）】

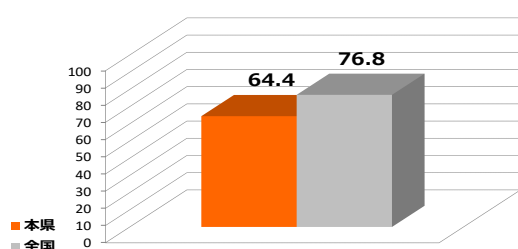
【（４９）英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える言語活動を行った】



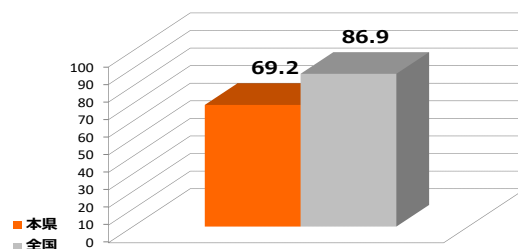
【（５０）英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える言語活動を行った】



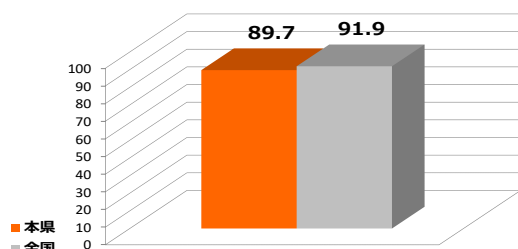
【（５１）原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行った】



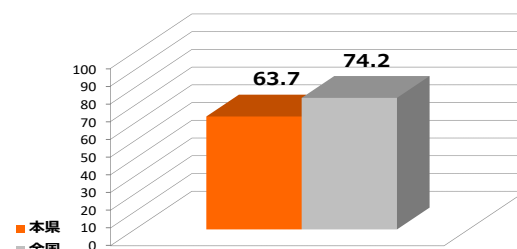
【（５２）スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行った】



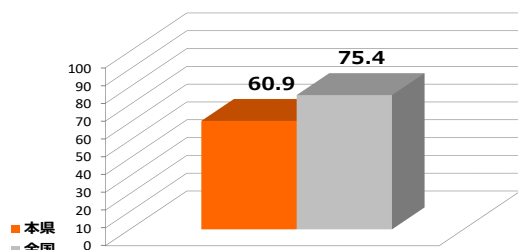
【（５３）自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動を行った】



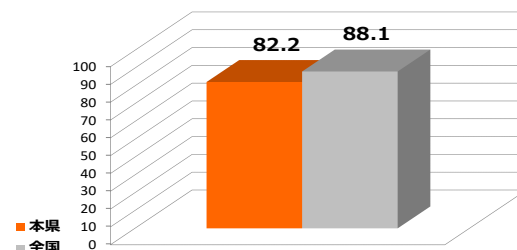
【（５４）聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行った】



【（５５）聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語でまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行った】



【（５７）全国学力・学習状況調査の調査問題や結果を踏まえて、言語活動の充実等の授業改善や、定期考査問題やパフォーマンステストの改善等の学習評価の改善に取り組んだ】



- ▼生徒の意識に比べ、英語担当教員の指導に対する取組の意識は全国平均より低い傾向にある。
- ▼特に、「原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動」「スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動」「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動」「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動」が全国と比べ、十分行われていない状況が見られる。

7 指導改善のポイント

(1) 各領域について《令和5年度全国学力・学習状況調査 報告書より》

聞くこと

◆ 自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る指導の充実

話されることの全てを聞き取ろうとするのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報かを判断した上で聞き取ることが重要である。指導に当たっては、自分の置かれた状況を把握できているかどうかと、何を聞き取ればよいかを理解しているかどうかを確認することが大切である。その上で、それらに関連する語句や表現に着目して、必要な情報を聞き取ることができるよう指導することが考えられる。

読むこと

◆ 説明文を読んで、概要を捉える指導の充実

段落内の文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容を捉えることが重要である。指導に当たっては、語と語の関連や代名詞、接続表現などを手掛かりにしながら、段落内の情報の関係を正確に把握することが大切である。また、各段落の主な内容を関係付けていくことにより、文章全体の大まかな内容を捉えることも求められる。

書くこと

◆ 読んだことを基に自分の考えとその理由を書く指導の充実

読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて表現することが重要である。指導に当たっては、読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど領域を統合した言語活動を行うことが大切である。

◆ 言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分ける指導の充実

言語の使用場面やコミュニケーションを行う相手との関係性を意識し、場面や状況に応じた適切な表現を選択することが重要である。指導に当たっては、実際のコミュニケーションにおいて複数の表現を取り上げた上で、使用した表現を共有し、分類や比較を通して言語の働きを考えることが大切である。

話すこと(やりとり)

◆ 基本的な語や文法事項等を理解し、即興で伝え合う指導の充実

文法事項の形式や意味の理解に加え、どのような場面で使用できるのか理解し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることが重要である。指導に当たっては、内容の伝達に重点を置きながらも、生徒が自ら発話した表現を書き出して修正点を考えたり、教師がフィードバックを与えたりするなどして、正確さに意識を向けることが求められる。

話すこと(発表)

◆ 聞いたことを基に自分の考えとその理由を話す指導の充実

話される内容を理解した上で、聞いて得た知識や情報について自分の考えやその理由を整理し、既習の表現などを活用して相手に伝わるように話すことが重要である。指導に当たっては、日頃の授業から聞いたり読んだりして得た知識や情報をメモにしたり、図式化したりしたことを基に、生徒が自分の考えを述べる機会を設定することが大切である。

知識及び技能

◆ 実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける指導の充実

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を理解するだけでなく、実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにすることが重要である。言語活動を行うに当たっては、言語材料について理解したり練習したりするための指導を十分に行う必要がある。既習事項を繰り返し活用し、定着を図ることができるように言語活動を工夫することも大切である。

(2) 質問紙調査の結果を踏まえて

話すこと

- ◆ 原稿などの準備をすることなく、(即興で) 自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動の充実を図ることが大切である。
- ◆ 英語によるスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を計画的に設定し、生徒が実際のコミュニケーション場面において既習の言語材料を活用する機会の充実を図ることが大切である。

技能統合型の授業づくり

- ◆ 聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする統合的な言語活動の充実を図ることが大切である。
- ◆ 聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする統合的な言語活動の充実を図ることが大切である。

〈令和４年度県学習状況調査を踏まえて（英語）〉

令和４年度県学習状況調査実施報告書において、本県の中学生は「読むこと」と「書くこと」に課題があると分析した。

「読むこと」については、日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報及び概要を捉えているかをみる問題に課題があった。繰り返される語句の省略に気付き、その内容を読み取る力、また、目的に応じて読み取る力が不足しており、主体的に考えたり、判断したりしながら読み進めていくことができていることが考えられる。今後の指導に当たっては、まとまりのある文章を最初から最後まで通して読む機会をできるだけたくさん設定する必要がある。意味が分からない言葉や表現があっても、意味が分かる言葉や表現をつないで文章全体の概要を捉える力を身につけさせる必要がある。また、主体的に英語を読めるようにするために、読む目的を明確にして指導することが大切である。

「書くこと」については、コミュニケーションを行う目的や状況などを理解し、対話が成り立つよう正しく英語を書くことができるかをみる問題に課題があった。誤答の原因として、「対話の内容を捉えることができなかった」「内容を捉えたが、人称や時制、文法事項等を正しく用いて書くことができなかった」という２点が考えられ、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で、基本的な語や文法事項等を正しく用いて書く力が不足していると思われる。今後の指導に当たっては、コミュニケーションの目的や場面、状況などを明確に設定し、伝えたい内容が読み手に伝わるように、言語材料を正しく用いて英文を書かせる指導を繰り返し行うことが大切である。その際、特定の言語材料だけでなく、様々な知識を活用させて英文を書かせる指導や、語や文法事項等の誤りを生徒自身に気付かせる指導（リキャスト、誤りのポイントをまとめたチェックリストやコレクションコードの活用等）を行うことが必要である。

【令和４年度学習状況調査実施報告書より】

今年度４年ぶりに実施された英語調査においては、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」全てにおいて課題が見られた。本調査を授業改善に活用するために、まずは、各調査問題の意図を深く理解し、調査結果や分析を踏まえ、自校の生徒の課題を把握することが大切である。授業改善に取り組む際には、手段や方法だけにとどまらず、外国語によるコミュニケーションによる見方・考え方を働かせ、生徒の興味・関心を高め、生徒自身が自らの成長や課題を実感できるような授業づくりを心掛け、適切な目的・場面・状況等が設定された意味のある言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するという目的を忘れないように留意したい。

また、コミュニケーションを図る資質・能力を確実に育成するために、CAN-DOリストの形での学習到達目標を活用し、小学校と中学校における英語教育を通して児童生徒に付けさせたい力を明確に設定・共有したり、AOMORI ENGLISH MODELを活用し、単元を通して児童生徒に付けさせたい力を明確にしたりしながら指導に当たることが大切である。

※授業改善の具体例

以下の資料を併せて参照してください。

- ・令和４年度学習状況調査実施報告書
- ・令和５年度全国学力・学習状況調査報告書（授業アイデア例掲載）

V 質問紙調査

質問紙調査の結果については、以下の視点で分析を行った。

- ・良好な状態を把握するために、
 - 全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かったか。
 - 望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）か。
- ・課題となっている状況を把握するために、
 - ▼全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かったか。
 - ▼望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）か。

1 生徒質問紙調査の結果と今後の対策

※★印の項目に肯定的に回答した生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(1) 基本的生活習慣等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 朝食の摂取、規則正しい起床、就寝等、概ね良好な状況であるため、引き続き、学級懇談等の場において、基本的な生活習慣についての課題を話し合うことを促すなど、保護者と連携していくことが必要である。また、昨年度より先生からよいところを認めてもらっていないと感じている生徒の割合が増えているので、普段の生活の中での生徒の小さな成長を見付け、認める場面作りの工夫が求められる。

(2) 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感・幸福感等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
7 将来の夢や目標を持っているか 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	74.5	+8.2	-1.2

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差（以下省略）

- 将来の夢や目標を持っていると考えている生徒の割合は、全国平均を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
9 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	95.8	+0.3	-1.3
11 人の役に立つ人間になりたいか 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	95.2	+0.6	-0.7

- いじめはどんな理由があってもいけないことだと考えている生徒の割合は、極めて高い。
- 人の役に立ちたいと考えている生徒の割合は、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね 50 %未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 本県の生徒は、自己肯定感が概ね高く、将来の夢や目標を持っている傾向にある。また、人の役に立ちたいと考えていることやいじめはいけない行為だと認識していることなど、道徳的な見方や考え方が培われていることが伺える。しかし、他人に対しての満足度が昨年度より低い傾向が見られることから、対人関係作りに不安を抱えている生徒への支援が求められる。今後とも、あらゆる教育活動において、生徒指導の実践上の視点を生かした指導の充実を図るとともに、道徳教育や特別活動等を通じて、豊かな人間性を育む教育を重視することが大切である。

(3) 学習習慣・学習環境等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね 95 %程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上低かった質問】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね 50 %未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
17 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強するか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）【2時間以上の割合】	20.7	-13.0	-1.2
18 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）（★）【2時間以上の割合】	39.2	-0.8	-8.3

- ▼ 学校の授業時間以外に、平日1日当たり2時間以上、勉強する割合は全国平均と比べて大きく下回り、前年度と比べても下回っている。全くしない割合が昨年度より増えている（昨年度は3.6%）。

※ 3時間以上 (4.9%) 2～3時間 (15.8) 1～2時間 (35.7)
 30分～1時間 (25.8) 30分未満 (12.3) 全くしない (5.2)

- ▼ 学校が休みの日に、1日当たり2時間以上勉強する割合は前年度と比べ、大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね 50 %未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
19 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっているか（インターネットを通じて教わっている時間も含む）【「学校でよく分からなかったことを教わっている」の割合】	6.7	-2.8	新規
20 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書するか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）【1時間以上の割合】	16.1	+2.3	+2.2
21 昼休みや放課度、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館（それぞれ電子図書館を含む）にどれくらい行くか【週1回以上の割合】	5.6	-1.4	新規
23 新聞を読んでいるか【週1回以上の割合】	9.4	+1.3	-1.3

- ▼ 学習塾や家庭教師の先生に学校でよく分からなかったことを教わっている生徒の割合は1割未満である。また、学習塾や家庭教師の先生に教わっていない割合は本県が67.1%、

全国は39.3%である。

- ▼ 学校の授業時間以外に、平日1日当たり1時間以上読書する割合は2割に満たない。
- ▼ 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に週に1回以上行く生徒の割合は1割に満たない。
- ▼ 週1回以上新聞を読んでいる割合は、1割程度である。

②今後の対策・指導

- ◆ 平日の家庭での勉強時間が全国と比べて大幅に短くなっていることに対して、家庭での勉強の意義を見いだせない生徒が増えていると考えられる。宿題が出るから勉強するのではなく、自ら粘り強く学習に取り組む態度の育成が求められる。
- ◆ 家庭学習の時間を確保するために、学級活動等の時間において、生徒に1日の生活の効果的な過ごし方を話し合わせる活動を定期的に行ったり、月単位、学期単位等の長い期間での学習計画を立てる活動を行ったり、生徒同士が家庭学習の時間確保や家庭学習の方法を話し合ったりするなどの活動を取り入れ、生徒自身が見通しをもって、家庭学習に取り組めるよう指導する。
- ◆ 家庭での学習習慣の確立には、家庭との連携が不可欠であることから、学級懇談会や学級（学年）通信等を通じて、家庭での学習習慣の確立に向けて協力を呼びかけたりしていくことが必要である。
- ◆ 読書については、日常生活において読書に親しむ習慣を身に付けるよう指導したり、学校図書館を計画的に利用するよう促したりする必要がある。また、新聞などを活用して得た情報を比較したり、論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読んだりすることが大切である。

(4) 部活動

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
25 学校の部活動に参加しているか 【「運動部」にだけ参加している「文化部」にだけ参加している」の合計】	88.9	+7.1	-6.9 (1)
26 普段（月曜日から金曜日）、平均して何日 学校の部活動に参加しているか 【「3日以上」の合計】	80.1	+7.5	新規
27 学校の部活動で、普段（月曜日から金曜日） 活動を行った日は、平均してどれくらいの時間、活動するか 【「2時間以上」の合計】	86.2	+9.0	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差（以下省略）

- ☐ 学校の部活動に参加している生徒の割合は、令和元年度より下回っているが、全国平均を上回っている。
- ☐ 学校の部活動で平日3日以上参加する生徒の割合は、全国平均を上回っている。
- ☐ 学校の部活動で平日2時間以上活動する生徒の割合は、全国平均を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
25 学校の部活動に参加しているか 【「運動部」にだけ参加している「文化部」にだけ参加している」の合計】	88.9	+7.1	-6.9 (1)

- ▼ 部活動に参加している生徒の割合は、全国平均を上回っているが、令和元年度より下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
28 学校の部活動で、土曜日や日曜日など学校 が休みの日に活動を行った日は、平均してど れくらいの時間、活動するか 【「3時間以上の割合」】	44.4	-2.4	新規

- ▼ 学校の部活動で休みの日に3時間以上活動する生徒の割合は4割を超えている。

②今後の対策・指導

- ◆ 部活動に参加している生徒の割合が全国と比べて高いが、令和元年度と比べて低くなっている。これは部活動の全員加入を行う学校が減ったことやクラブチームに参加する生徒が増えたことが影響を与えていると考える。ただし、クラブチームに参加する生徒や塾及び習い事等に参加する生徒の割合や状況が不明であるため、生徒の放課後の活動を、本調査のみで把握するのが困難である。

(5) 地域や社会に関わる活動の状況等

①概況及び課題

【全国平均及び前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
32 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思うか 【当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	68.9	+5.7	+2.5 (1)

- 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う生徒の割合は、全国平均を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
29 今住んでいる地域の行事に参加しているか 【当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	37.9	-0.1	-2.9

- ▼ 今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合は、4割程度である。

②今後の対策・指導

- ◆ 地域に対する興味・関心をもつことは生徒の視野を広げ、自己の将来を具体的に描くことや学習に対する意欲付けにつながる効果も期待できることから、生徒が地域の行事等に自ら参加するよう促したり、参加できる環境を学校が積極的に整えたりすることが大切である。

(6) ICTを活用した学習状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
33 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を使っているか 【週3回以上の割合】	87.5	0.0	+8.3

- 1、2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使っている生徒の割合は、前年度より上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
35 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っているか 【2時間以上の割合】	5.0	0.0	新規

- ▼ 学校の授業時間以外に、平日、1日当たり2時間以上、PC・タブレットなどのICT

機器を、勉強のために使っている生徒の割合は、1割にも満たない。

②今後の対策・指導

- ◆ 授業時間におけるICT機器の活用は進んでおり、ICTの普段使いが定着しつつある。今後は、ICT機器を家庭での学習で活用できるよう、取り組む必要がある。

(7) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
36 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか（★） 【発表していた」「どちらかといえば、発表していた」の合計	56.0	-6.1	-3.0
41 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか（★） 【当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計	70.2	+1.0	-7.4

- ▼ 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた生徒の割合は、全国平均と比べ、下回っている。

- ▼ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている生徒の割合は、前年度と比べ、下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、自分の考えを伝えるために工夫する活動や自らの学びを振り返る活動を展開する必要がある。

(8) 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
45 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいるか。【当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計	77.1	+5.5	-2.1

- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると考えている生徒の割合は、全国平均を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 学級活動の授業においては、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさを生かしながら、集団や自己の生活上の課題を解決する授業を行う必要がある。

2 学校質問紙調査の結果と今後の対策

※★印の項目に肯定的に回答した学校の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(1) 生徒指導等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
11 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	98.7	+0.1	+1.4
12 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	97.3	+1.2	+4.7
13 学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	99.3	+1.0	+2.0

- ☐ 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした学校の割合は極めて高い。
- ☐ 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた学校の割合は極めて高い。
- ☐ 生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行った学校の割合は極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
8 熱意をもって勉強していると思うか（★） 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	77.4	-11.3	-10.4 (1)

- ▼ 熱意をもって勉強していると思う学校の割合は、全国平均及び過年度と比べ、大幅に下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ キャリア教育の推進が見られ、生徒一人一人のよい点を見付ける取組が行き届いている。今後も引き続き、生徒指導の実践上の視点を生かし、指導の充実を図っていくことが望まれる。
- ◆ 主体的に勉強に向かうためには、日々の授業改善が必要である。教師主導の授業スタイルから脱却するためにも、校内研修のより一層の充実が求められる。

(2) 学校運営に関する状況 教職員の資質向上に関する状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
25 校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を、誰が担うか 【「校内研修を行う分掌を設け、研修主事が担っている」「校内研修を行う分掌を設け、研修主任または研究主任が担っている」の合計】	98.6	+11.1	+1.3

- ☐ 校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を設け、研修主事又は研修主任、研究主事が担っている学校の割合は極めて高く、全国平均を大きく上回っている。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
14 教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行ったか 【「月に数回程度以上行った」の合計】	47.2	-14.2	+10.7
15 教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行ったか 【「月に数回程度以上行った」の合計】	70.6	-4.7	+17.9
18 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成しているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	93.8	-0.3	+5.4 (1)
20 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	84.2	-4.3	+5.9
24 個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加しているか。（オンラインでの参加を含む） 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	87.6	+6.5	+3.8

- ☐ 教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを月に数回程度以上行った学校の割合は、全国平均を大きく下回っているが、前年度を大きく上回っている。
- ☐ 教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを月に数回程度以上行った学校の割合は、前年度を大きく上回っている。
- ☐ 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成している学校の割合は、過年度を上回っている。
- ☐ 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている学校の割合は、前年度を上回っている。
- ☐ 個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等（オンラインでの参加を含む）に定期的・継続的に参加している学校の割合は、全国平均を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
19 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基つき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立しているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	98.6	+3.4	+2.0
22 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	97.2	+2.5	+4.0

- ☐ 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基つき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している学校の割合は、極めて高い。
- ☐ 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている学校の割合は、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
14 教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行ったか 【「月に数回程度以上行った」の合計】	47.2	-14.2	+10.7

- ▼ 教員が授業で問題を抱えている場合、月に数回程度以上そのことについて話し合うことを行った学校の割合は、前年度に比べ、大きく上回っているが5割に達していない。全国平均に比べ、大きく下回っている。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
17 ICTを活用した校務の効率化の一環として、クラウドを活用した校務の効率化（クラウドサービスを活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等）に取り組んでいるか 【「多く又は一部の校務で取り組んでいる」割合】	85.6	-10.3	新規
21 言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいるか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	87.7	-5.7	新規
23 生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	75.4	-8.4	+1.0

- ▼ ICTを活用した校務の効率化の一環として、クラウドを活用した校務の効率化（クラウドサービスを活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等）に取り組んでいる学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいる学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている割合は、全国平均に比べ、下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 授業や学級で問題を抱えている教員に対して、話し合うことを月に数回以上行っている割合が前年度に比べて大幅に増加したが、全国と比べると低いことから、校長のリーダーシップのもと、教員の不安を緩和するための校内体制の構築やメンタルヘルスに関する手立てを継続し、該当教師が1人で悩み続けることがないように、風通しのよい職員室経営が管理職に求められる。
- ◆ 校内研修の計画の立案を担当者が中心となって進めるなど、組織体制は構築されつつあるが、言語活動の充実や主体的に学習に取り組む活動等、具体的な研修内容については、自校の現状や課題を踏まえて精査するなど、校内研修の更なる充実が求められる。
- ◆ ICTを活用した校務の効率化について、多くの業務において、全国と比べて軽減が図られていないと感じている学校が多いことから、ICTに関する先進事例を参考にするなど、取り組める部分から実践することが求められる。

（3）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
36 本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったか 【月に数回程度以上行った】	59.6	-5.1	+30.9 (3)

- 本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行った学校の割合は、全国平均に比べ、下回っているが、過年度に比べ、大幅に上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
26 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うか(★) 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	81.5	-6.5	-5.0
33 授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	80.1	-6.9	-4.3
35 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	67.8	-10.8	-3.8
36 本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったか 【月に数回程度以上行った】	59.6	-5.1	+30.9 (3)

- ▼ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う学校の割合は、全国平均及び前年度に比べ、下回っている。
- ▼ 授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行った学校の割合は、過年度に比べ、大幅に上回っているが、全国平均に比べ、下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった(概ね50%未満) 質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 全ての項目で全国平均を下回っている。自分で考え、自分から取り組む主体性を育む授業づくりや、身に付けたことを課題の解決に生かす機会を与える授業づくりを通して、生徒に身に付けさせたい力を明確にし、集団の中で課題を解決するための言語活動の更なる充実が求められる。
- ◆ 計画的に調べることを学習に組み込んでいる授業が増えている一方で、学びの質を高めるための授業改善の取組が必要である。

(4) 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
37 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	94.5	+2.4	+8.1

- 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている学校の割合は、前年度を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度) 質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
40 特別の教科 道徳において、取り上げる題材を生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	95.2	-1.7	-1.5

- 特別の教科 道徳において、取り上げる題材を生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている学校の割合は極めて高いが、全国平均及び前年度と比べて下回っている。

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね 50 %未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 総合的な学習の時間や各教科の授業で、生徒の課題意識を生かした単元計画を構想したり、生徒が調べ、分析し、発表・表現するような探究的な学習活動を取り入れるなど、生徒が課題意識をもって主体的に学習活動に取り組めるよう工夫が必要である。

（５）学習評価

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね 95 %程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね 50 %未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 学習評価の方針を事前に示し、学習評価の結果を教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしている。今後は、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うと同時に、評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価することに対して、より一層の充実が求められる。

（９）ICTを活用した学習状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
63 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業で活用したか 【週3回以上】	74.6	-12.1	+8.4
64 生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させたか 【週3回以上】	44.5	-20.1	+5.3
67 生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させているか 【週3回以上】	19.9	-13.8	+6.4
71 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、家庭で利用できるようにしているか 【時々持ち帰って、時々利用させている以上】	47.3	-29.6	+10.1

- ☐ 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上授業で活用した学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っているが、前年度より上回っている。
- ☐ 生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用させた学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っているが、前年度より上回っている。
- ☐ 生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用させている学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っているが、前年度より上回っている。
- ☐ 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を持ち帰って、家庭で利用させている学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っているが、前年度より大きく上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね 95 %程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上低かった質問】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね 50 %未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
64 生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させているか 【週3回以上の割合】	44.5	-20.1	+5.3
65 生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させているか 【週3回以上の割合】	35.0	-9.2	+4.6
66 教職員と生徒がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させているか 【週3回以上の割合】	33.5	-15.2	+3.8
67 生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させているか 【週3回以上の割合】	19.9	-13.8	+6.4
68 生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させているか 【週3回以上の割合】	19.8	-15.9	新規
70 教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器を活用しているか 【「よく活用している」「どちらかといえば、活用している」の合計】	39.7	-21.9	-5.6
71 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、家庭で利用できるようにしているか 【時々持ち帰って、時々利用させている以上】	47.3	-29.6	+10.1
72-3 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、外国人生徒に対する学習活動等の支援で活用しているか 【週3回以上の割合】	4.1	-7.6	新規

- ▼ 生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用させた学校の割合は、5割に満たなく、全国平均に比べ、大幅に下回っている。
- ▼ 生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用させた学校の割合は、3割程度であり、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 教職員と生徒がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用させた学校の割合は、3割程度であり、全国平均に比べ、大幅に下回っている。
- ▼ 生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用させた学校の割合は、2割程度であり、全国平均に比べ、大幅に下回っている。
- ▼ 生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用させている学校の割合は、2割程度であり、全国平均に比べ、大幅に下回っている。
- ▼ 教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器を活用している学校の割合は、4割程度であり、全国平均に比べ、大幅に下回っている。
- ▼ 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、時々持ち帰って、時々家庭で利用できるようにしている学校の割合は、約5割であり、前年度に比べ、大きく上回っているが、全国平均に比べ、大幅に下回っている。
- ▼ 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、外国人生徒に対する学習活動等の支援で週3回以上活用している学校の割合は、1割に満たなく、全国平均に比べ、下回っている。

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
60 教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行ったか 【週3回以上の割合】	80.1	-9.0	+1.7
63 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で活用したか 【週3回以上の割合】	74.6	-12.1	+8.4

- ▼ 教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を1クラス当たり週3回以上行った学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で週3回以上活用した学校の割合は、全国平均に比べ、大幅に下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
69 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、生徒が学校外の施設（他の学校や社会教育施設、民間企業等）にいる人々とやりとりする取組を実施したか 【月1回以上の割合】	3.4	-2.4	+2.7
72-1 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、不登校生徒に対する学習活動等の支援に活用しているか 【週3回以上の割合】	34.2	-3.9	新規
72-2 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、特別な支援を要する生徒に対する学習活動等の支援に活用しているか 【週3回以上の割合】	41.1	-3.6	新規
72-4 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、生徒の心身の状況の把握に活用しているか 【週3回以上の割合】	31.6	+0.7	新規
72-5 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、生徒に対するオンラインを活用した相談・支援に活用しているか 【週3回以上の割合】	9.5	-2.0	新規

- ▼ 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、生徒が学校外の施設（他の学校や社会教育施設、民間企業等）にいる人々とやりとりする取組を月1回以上実施した学校の割合は、1割に満たない。
- ▼ 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を不登校生徒に対する学習活動等の支援に、週3回以上活用している学校の割合は、4割に満たない。
- ▼ 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、特別な支援を要する生徒に対する学習活動等の支援に、週3回以上活用している学校の割合は、4割程度である。
- ▼ 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、生徒の心身の状況の把握に、週3回以上活用している学校の割合は、3割程度である。
- ▼ 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、生徒に対するオンラインを活用した相談・支援に、週3回以上活用している学校の割合は、1割程度である。

②今後の対策・指導

- ◆ ICT機器の活用に関しては、前年度と比べると活用が進んできているが、全国と比べると下回っている項目がほとんどである。まずは授業での活用の更なる推進を図ることから始め、少しずつ授業外の利活用を進めていく必要がある。

(10) 特別支援教育

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均及び前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
73 障害のある生徒が一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用する際、入出力支援装置等を活用し、障害種・障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援を実施したか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	3.5	-9.9	新規

- ▼ 障害のある生徒が一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用する際、入出力支援装置等を活用し、障害種・障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援を実施した学校の割合は1割に満たず、全国平均に比べ、下回っている。

【全国平均及び前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
74 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の生徒に対する授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫等）を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	84.9	-9.2	-1.6

- ▼ 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の生徒に対する授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫等）を行った学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。

②今後の対策・指導

- ◆ 生徒の特性に応じた指導上の工夫を組織的にを行い、効果的なICT機器の活用について研鑽を深める必要がある。

(11) 小学校教育と中学校教育の連携

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
76 近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行ったか。 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	67.1	-0.2	+6.9
77 令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有したか。【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	43.8	-10.9	+10.0

- 近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行った学校の割合は、前年度より上回っている。
- 令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有した学校の割合は、全国平均を大きく下回っているが、前年度より大きく上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
77 令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有したか。【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	43.8	-10.9	+10.0

- ▼ 令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有した学校の割合は、約4割程度であり、前年度より大きく上回っているが、全国平均に比べ、大きく下回っている。

②今後の対策・指導

- ◆ 近隣の小学校との連携は、合同研修会を実施するなど、前年度より活発な動きが見られている。今後は、小中で共通した教育課題に対しての取組を深める必要がある。ただし、主観ではなく、客観的なデータを活用することで、より具体的な連携事業を推進することが可能であるため、より一層の工夫が求められる。

(12) 家庭や地域との連携等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
78 調査対象学年の生徒に対して、前年度に、職場体験活動を何日程度行ったか 【実施しなかった】「1日～2日」の合計	91.8	+16.3	+18.8

- 前年度に、職場体験活動を3日未満行った（実施しなかったも含む）学校の割合は、全国及び前年度と比べても大きく上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
81 保護者や地域の人との協働による取組は、教員の負担軽減に効果があるか 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	55.5	-5.2	新規
82 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まったか 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	69.9	-9.4	新規

- ▼ 保護者や地域の人との協働による取組は、教員の負担軽減に効果があると思う学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。

- ▼ コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まったと思う学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行い、社会に開かれた教育課程の実現を目指すことが求められる。そのため、カリキュラム・マネジメントにより、効果的な教育活動の体制を整備する必要がある。

(13) 家庭学習

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 家庭学習の意義を見直し、生徒に家庭学習に取り組む理由について考えさせ、主体的に取り組める生徒の育成が求められている。

(14) 全国学力・学習状況調査の結果の活用

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね 95 % 程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
86 令和 4 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したか 【「よく行った」「行った」の合計】	80.8	-12.2	-5.7
87 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行ったか 【「よく行っている」「どちらかといえば行っている」の合計】	77.3	-10.8	+0.3
88 令和 4 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行ったか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）【「よく行った」「行った」の合計】	54.1	-27.0	+3.5

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね 50 % 未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 全国学力・学習状況調査を生かすために、結果を有効活用する方法を検討する必要がある。特に当該学年だけでなく、学校全体で振り返る機会の設定が求められる。また、県学習状況調査と併せて分析したり、教育指導の改善に反映を行ったりすることも求められる。さらに、結果については保護者や地域に適切に説明するなど、社会に開かれた教育課程の実現に向けて取り組むことが求められる。

(15) 新型コロナウイルス感染症の影響

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上高かった質問】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね 95 % 程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
89-3 調査対象学年の生徒に対して、前年度に学芸会や文化祭を実施したか 【「新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ内容・方法で実施した」「新型コロナウイルス感染症の影響前とは内容へ方法を変更して実施した」の合計】	100.0	+24.3	新規

- 調査対象学年の生徒に対して、学芸会や文化祭を実施した学校の割合は 10 割であり、全国平均に比べ、大きく上回っている。

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
89-5 調査対象学年の生徒に対して、前年度に芸術鑑賞会を実施したか 【「新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ内容・方法で実施した」「新型コロナウイルス感染症の影響前とは内容へ方法を変更して実施した」の合計】	50.7	+8.2	新規

- 調査対象学年の生徒に対して、芸術鑑賞会を実施した学校の割合は 5 割であり、全国平均に比べ、上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
89-1 調査対象学年の生徒に対して、前年度に 体育祭・競技会・球技会を実施したか 【「新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ内容・方法で実施した」「新型コロナウイルス 感染症の影響前とは内容へ方法を変更して実施した」の合計】	100.0	+1.6	新規

- 調査対象学年の生徒に対して、体育祭・競技会・球技会を実施した学校の割合は10割であり、全国平均に比べ、上回っている。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
89-4 調査対象学年の生徒に対して、前年度に 遠足を実施したか 【「新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ内容・方法で実施した」「新型コロナウイルス 感染症の影響前とは内容へ方法を変更して実施した」の合計】	45.9	-16.0	新規

- ▼ 調査対象学年の生徒に対して、遠足を実施した学校の割合は5割に満たなく、全国平均に比べ、大きく下回っている。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
89-6 調査対象学年の生徒に対して、前年度に 職業体験活動を実施したか 【「新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ内容・方法で実施した」「新型コロナウイルス 感染症の影響前とは内容へ方法を変更して実施した」の合計】	52.8	-6.3	新規
89-7 調査対象学年の生徒に対して、前年度に 修学旅行を含む集団宿泊活動を実施したか 【「新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ内容・方法で実施した」「新型コロナウイルス 感染症の影響前とは内容へ方法を変更して実施した」の合計】	76.7	-11.7	新規

- ▼ 調査対象学年の生徒に対して、修学旅行を含む集団宿泊活動を実施した学校の割合は5割程度であり、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 調査対象学年の生徒に対して、職業体験活動を実施した学校の割合は8割に満たなく、全国平均に比べ、大きく下回っている。

②今後の対策・指導

- ◆ 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、校内で実施可能な学校教育活動においては、感染症対策を徹底することにより、実施できている状態である。今後は、新しい生活様式を踏まえた学校教育活動を更に推進していくことが求められる。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、校外で実施する学校教育活動においては、慎重な取組を行っている状態であるが、各校で工夫して生徒の学ぶ機会を設ける必要がある。今後も感染防止対策を講じつつ、校外行事等の実施を目指していくことが求められる。